

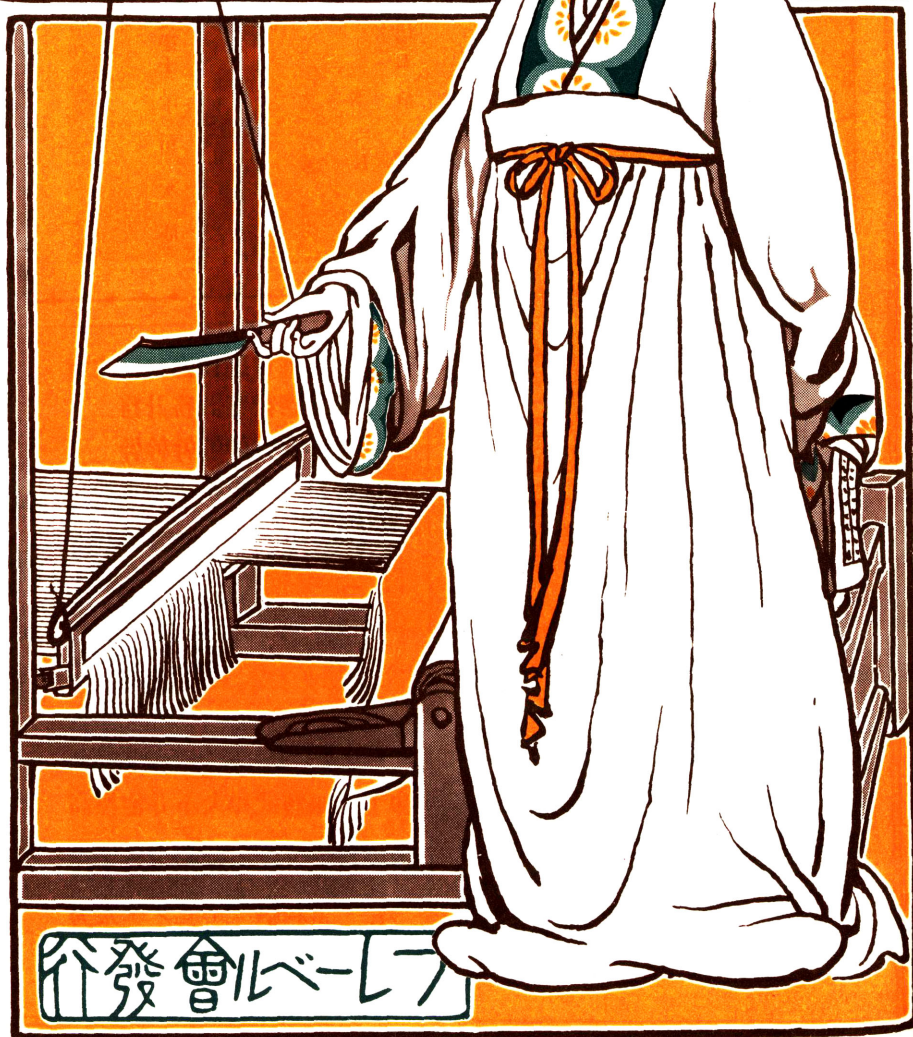


幼 兒 教 育 研 究 雜 誌



母と子

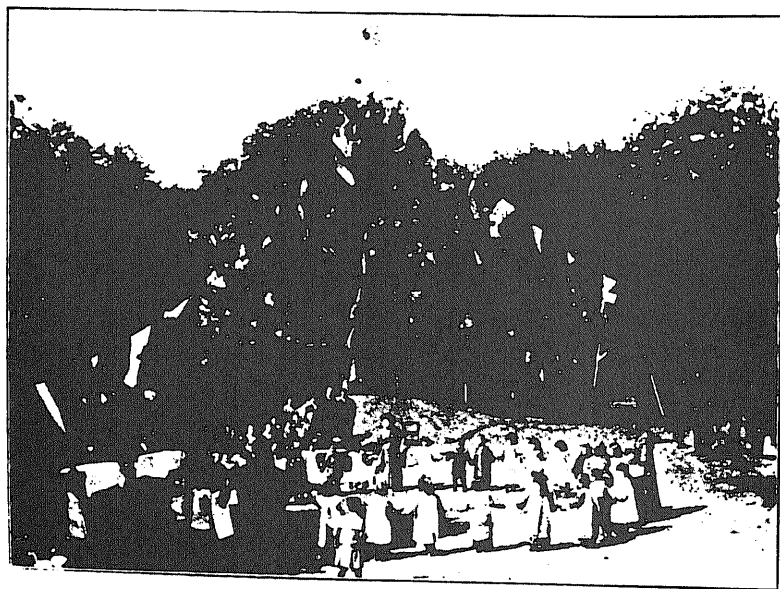
第拾卷
第壹號

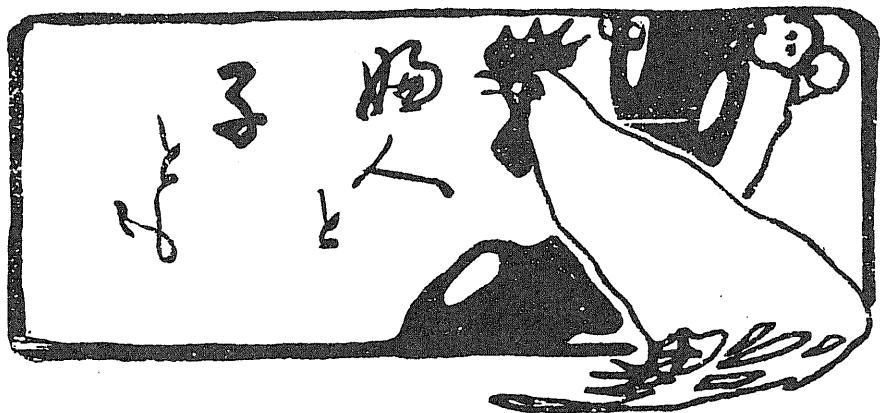


フーバー會發售

①一冊郵稅共金拾一錢
 ②拾二冊同金壹圓貳拾錢
 ③六冊前金郵稅共六拾錢
 ④郵券代用一割增

女高師附幼稚園児の遊戯





第拾卷第一號

謹賀新年！

本誌發行以來卷を重ねること、茲に拾回、
 時、恰も、幼稚園保姆の待遇令改正せられ、
 我國幼兒教育界のこと、是より又新なら
 んとするの機に際す。讀者諸君希くは自
 重、自愛、以て、益、修養に努められんことを。
 吾等又筆硯を呵して本誌の改善に盡さ
 んと欲す。乞ふ諒せよ。

母親

文學士 下山次郎

此頃の婦人は、美しい若い妻たらんことを願ふて、所謂慈母たることを願ふ心掛は無くもなからうが、是れから新家庭を組織しやうとする若い婦人の考は、兎角前者即ち美妻主義であつて後者の良妻慈母と云ふ考へは薄くはなからうかと思はれる。凡そ未婚者にあれ既婚者にあれ、良妻たると同時に慈母たる考へは終始其の念頭を去つてはならぬもので、家事とか經濟とか云はずもがなのこと、新時代に活動せんとする小供が生れたならば、斯く躰け斯く教育せんと云ふことを考へ置かざるべからず、即ち母親として世間に耻づるところ有つてはならないのである。

元來、今までの親の多くは子供の教育は學校でやつてくれるものと云ふ觀念があるから、小供の學齡に達する迄は勿論、其の就學後に於ても矢張同様の考へで、唯親は小供を學校にやる義務のあ

るもの、父學校へさへやつて置けば世間普通の人間に成れるものと考へて居るのが多かつた、否現在も尙多いのである、勿論小供の教育は家庭と學校の兩者に因つて始めて完き者たるを得るのであるから、此點は大いに考慮を要するものと信ずるのである、然し現今の婦人は大抵此の位のこと承知はして居るものゝ、實際母親として其の小供を取扱ふ時は如何あらうか、餘程考へないと理想通りには行かないのである。

先づ第一は胎内教育である、三歳兒の魂百までといふ諺がある、子供は胎内から既に母親の感化を受けて居るもので、母親の思ふこと言ふことを受けることは悉く小供に感化を及ぼすものである、其の感化の力が如何様にせねばならぬか、實際の經驗其の他自分が見聞した事に就て之を説明する。世の進化と共に一般の男女が、労働は神聖であるといふ考へが盛んになつて來たのは喜ぶべき現象であるけれども、妙齡の婦女子などが、其の理想目的に就ての考へは、悉く着實なる社會觀より割出される者は頗る稀にして、大概は社會の誰れ

も希望する體裁の良きものを撰ぶのが普通であるが、茲に特例なる女髮結理想の女學生がある、これは自分が奉職して居る某女學校で生徒の理想希望目的若くは何になりたいたと云様な事に就て夫々の思ふ處を書いて出させた事がある、處がやれ誰の様な豪い婦人になりたいとか何の誰の様の人に嫁ぎたいとか、種々雑多な目的希望理想を認めて出された、其の中で最も私の注意を惹いたのは女髮結になりたいたと認めてあつた一生徒の答へである、婦人が女髮結になりたいたと云つたからとて別に不思議はない、然し夫は稍々家の貧しいものと下層に居る婦人が希望して居る處で、良家の子女や富豪の令嬢であつて之を望むで居るとしたなら、大に不思議であると謂はねばならぬ、私に女髮結になりたいたと答へたのは良家の子女であつた、富豪で而も社會に地位名望のある人の令嬢であつた、其の様な家の令嬢が女髮結を希望したに就ては何故貴嬢は女髮結を希望しますかと反問せずには居られぬ。

此の女學生が女髮結になりたいたと答へたのは、

其の母親の言が動機となつたので其の女學生の謂ふ處に依れば斯うである、自分は女髮結は婦人の髪を賃金を取つて結つてやる仕事であると云ふ事の外には、桃割を何うして結ぶか何すれば丸髷が出来るか知らぬけれど、何日ぞやお母さんが下女に女髮結と云ふ商業は實に善い仕事だ少しは急がしいけれども非常に金が取れる、女としてはあんな善い商業はあるまいと話して居られるのを聞いたので、お母さんが善いと謂はれる商業ですから女髮結と云ふものは悪い商業ではない、金の取れる善い商業であらう、善い商業なら私もなりたいたいのだと思ふてさう書きましたとの答へであつた。

總て兒供は親の云ふことは何でも善いものと決めて居る、親のすることは何んでも眞似て差支ないものと思つて居るのである、殊に母親は最も多く其の子女に接して居るものであるから其の一言一舉の末といへども、尙も兒供に聞かせて悪いこと眞似さして善くないことは大に慎むべきである、一寸聴けばつまらない話の様だが深く研究

すると之れは母親の心得として非常に大切なるものである、夫れを児供の邊に居るのにも拘らず其の親は世間の宜しからざる評判を爲すとか或は兒供に見せて宜しからざる行爲をなすとかして却つて兒供には斯ることは云ふてはならぬ爲てはならぬとか云ふのはよく世間にある例なれど、兒供は其の時こそは言ひもせず行ひもしないとして安心して居ると大間違、いつか兒供の腦裏に其の親の言行が浸み込んで居て其の兒供の言行となりて現はるか或はそれが全く兒供の第二天性として成人の後惡しき言行となりて現はるのであるから、之れを輕々しく考へては兒童教育上に非常なる惡影響を與ふるものである母親たるものは餘程此の點に留意して貰はなければならぬ、彼の孟子の母が孟子を育てる時に非常の苦心をした事は人に脛炙して居る「孟母三遷」の話で在るが、實に些細の事の様で且つあまり世間に知られない話がまだ澤山ある。

孟子の母は虚言をせぬ婦人であつた、或時孟子の隣家で鶏を料理して居るのを孟子が見てお母さ

んあれは何んにするのですかと問ふた處、孟子の母はうつかりしてあれはお前が大變大人しく聖人の書を勉強して居るからお前にそれを御馳走するのだと答へたが、後になつてあゝこれは詰らぬ事を謂つた此な事を謂つたため孟子は御馳走が喰べられると喜んで居るであらうに、之を喰べさせなかつたらお母さんは嘘言を語つたお母さんがする事だから嘘言を云つても差支へなからうと思つては大變だと心付いたので、態々鶏の料理を買つて来て孟子に喰べさせたと云ふ事であるが、孟子と云ふ賢人を養成するために其の母が如何に苦心したかい此一小説によつても想像することが出来るのである、母親の心は神の心である、ジュデアの諺に「神は母に宿る」と云ふ言葉がある、即ち神は全世界の總てを一人で監視して善を勧め惡を懲らして居る、暇が無いから是を母親に任し母親には神様が宿つて居るから兒供は母親の云ふ事をよくきゝ母親の教へを守つて苟も惡事を働いてはならぬと教訓して居るのである、又ベスタロツチは兒供の良心は父母にあると謂つて居る、如何

に悪人でも無理非道の奴でも其の母親からの教訓その母親に就いての話を聴いて、悔い改めぬものはあるまいといふのである。

國民教育の源泉は母親であると、佛蘭西のナポレオン皇帝は謂つて居る。先づ母を教育せよ然らば國民は自ら教育せられんと、總て男子は外にあつて働き女子は内にあつて家庭の處理をして居るので、一見母は社會に現はれぬ様に思はれるが實際に於ては其子が母を代表して社會に顯はれて居るので、子供及び母の子たる總ての人間が社會で行つて居る總ての事は即ち母を代表して行つて居るのである。日本では子供が悪い事をする親の親が悪いからだと言ふが、全く其の通りで賢い母親を有つた子は賢いとして社會に出ては善行が多し、之れに反して悪い母によつて養成された子供は社會に出て悪い事をする馬鹿な事をする子供は多し、い事をする子供は皆其母がこれを賢く且つ善く養つてなかつた罪であつて、ナポレオンの謂ふ處は實に動かす事の出来ぬ格言疑ふ餘地のない真理である。

茲に母親の精神教育としての實例がある、私の女學校にある年成績優等で入學した一人の女生徒があつたが、其の年其の女生徒が東國の郷里に休暇で歸省した處、其母——父はもう死亡して家族は母親と二人暮しである——は、非常に喜んで成績優等で其の目的の學校に入學したのを喜んで呉れる、娘は久し振りに母に逢つたのが懐かしい餘り、涙を流したのであるが、ひよつと母の足を見ると、娘は大に驚いて其の譯を尋ねた處、其の母は別にさう驚かなくてもよい、これはお前が四月東京に試験を受けに行つた時、どうか試験が無事に通過のやうにと、毎朝／＼早く霜の朝雪の夕を鎮守の神様に跪走參りをしたため、凍傷を起してこんなに爪が脱けたのだがナニお前のためにこれ位は何んでもない、お前の試験が優等で通つたと云ふ手紙がお前から届いた時に私は悦し泣きに泣きました、そして直様神様に御禮詣をしたとの話に娘は母の慈愛に感泣したのであつた。

此の母にして此の娘ありで、其の後其の娘は常

に心に胸に母の事を深く刻で、一生懸命に勉強したがお母さん一人なのに莫大の學費を送つて貰つて済まぬと思つたので、學費は半分でよい其の残りでお母さんが甘いものでも上つて下さいと云つて遣つた處、貰ひ戻して娘思ひの其母は折返し娘に手紙を出し自分はお前の成長すること、早く學校を優等で卒業して立派な婦人になることを楽しみにして居るので、お前のために苦勞して居るのは決して苦勞とは思はぬ、學費の事などは心配せず又私の身の上を思つて呉れるのは難有いが其の際に書物の一頁でも多くを讀んで、早く立派な婦人になつて呉れとの戒に、娘は毎夜々々母の深い慈愛に感謝の意を表する温い涙を以て眼を濡し乍ら勉強したため、兎角若い婦人の陥り易い誘惑に打勝ち目出度優等で學校を卒業した、斯かる實例を擧げて説話する時は、或婦人の中には此の文明の世に、なんば愛娘のためとはいへ、冬の朝霜まで跣足で蹈んで神參りをしてそしてその娘を勵まさずとも、精神教育の仕方は外にも有る、餘り馬鹿氣で居るとハイカラ流の攻撃はあるかは知ら

ねども、之れは一つの實例であつて母一人娘一人の場合には随分同情を表すべき事柄である、それでは其攻撃をする人にどれだけの精神教育が有りどれだけの熱心があつて、完全に女子教育有終の美を收むることが出来るかと云ふに、所謂其の言行は一致せずして實に學校の門戸を飛出したと云ふのみで、一向社會の實用に適する婦女子はないのである、つまり生意氣の婦女子が澤山出來上るのである、此等は學校教育の任に在るもの、大に留意すべき事なれども、矢張家庭に於ける母親の慈愛を含める熱心なる精神的訓戒はかゝる場合に非常なる好果を來すものなるを以て、母親たる者は亦子女教育上常に浮薄ならざる觀念を鼓吹するところが肝要である。

惡女も子には賢母である、總て女は妻になつた時が修業の門に入つた時で、子を産んで母となつた時が卒業の時である世の中には随分外面如菩薩内心如夜叉と云ふ様な悪い女排斥すべき女亂倫の女は非常に多い、然し母としての女には排斥すべきものは非常に少ひ、母として子に對する女は皆

善人である、如何に悪い女でも子に對して善人とならぬものはない即ちこれが道德上母の修養で子に對する母の心得を常に持して居るものは善人で且つ正しい婦人である。

よくある事だが、或母親が自分の家の兒供が隣家の兒供と喧嘩をして終に双方が泣き出すと、其親達が出る、兒供の争ひは親の争ひとなりそれから家同士が相反目する事が有るがつまり之は其の親達は各自の兒供が可愛といふ念あるため其兒供の行為の是非善惡を判別する違なく、何でも自分の兒供は善いとするから起るものである、かゝる事は重に下層社會にありがちの事ながら、親たるものは此の場合に自分の兒供の行為の善惡を判別し若し自分の兒供が悪しければ充分之を罰し、若し惡しくなくとも喧嘩は惡き者として自分の兒供を誠めざる可らず、假りに惡しき行為ありし自分の兒供を庇護するは絶対に注意しなければならぬことである。

然し婦人は愛憎の變化の多いものであることは事實で、其の爲め兒供を損ふ事が尠くない、一體

に婦人は何うしても神經質の者が多いから、其の兒供を養へる上に自然愛憎心の加減に依りて天性の善良の兒供もいやに神經質のヒエクレたる兒供と成すことあり、深く考へなければならぬ事である、母親が何か氣嫌の惡い時に其兒供が善い行をしてても、却つて母親は之を賞すに自分の怒りを移すために、兒供を強く叱つたり、是れと反對に兒供が悪い事をしてても何か母親自身の心中に喜しい事があつた時などは之を寛宥したりすることがあるのだ、一寸兒供心には其母親が持つて居る善惡の標準を定めることが出來ず、善い事をしても叱られるならと云ふ様になつて、ついで母親の云ふ事や命令も聽かなくなる事があるから、愛憎の甚しい變化は母親として最も注意すべきである、茲に附加へて言ふて置きたい事は、一家の内には兄弟あり姉妹あり其兄弟姉妹には母親に對して繼母子の關係あるものも有つて、斯る家庭に於ては其の母子の關係は随分面倒至極の有つてお家騒動などは皆かういふ關係から起つたのである、それで有るから其間に處するは親の兒供に

對する氣配りは容易ならぬもので有つて、其母親たるもの、精神教育が充分出來て居らない婦人であつたならば實際此場合の兒供の教育は完全を望んでも不可能である、要するに斯る場合の兒供の躾け方は一般の兒供に對する愛の平等であるのは最も肝要であらうと信ずるのである、其繼子に對しては一層深き注意を以てこれに望み繼子をして實際の生母と異なるの感なからしめる様しなければならぬのである、其兄弟姉妹が同母子で有る場合でも、世間には甲を愛して乙を憎むと云ふやうな事を耳にすれども、之れそんな片寄りたる事の有る可き筈なれば、何處までも愛の平等を保たねばならぬものである、これは母親の愛情心の變化の甚しきものなどにはまゝ有りがちの事であると思ふから、特に附加へて世の母親たるべき婦人の注意を希望するのである。

子を思ふ母の心は闇と云ふ事がある、古歌に「人の親の心は闇に有らねども子を思ふ闇に迷ひぬるかな」と云ふのがあるが、實際如何なる賢婦人でも子のために種々迷の闇に入る事が多い、兒供を

甘やかすと云ふのもそれで、兒供に對して場合によつて適當に勸善の正しい方法を取らねばならぬ、甘い子が出來るのは兒供の罪ではなく甘い親の罪である、子を育てるのに甘くするのは家を建てる時に楔を打なかつた様なもので、如何に外観は立派な家でも楔がなければ何時か暴風のため崩壊する、兒供も矢張りそれと同じである、又兒供が親を侮ると云ふ事は世間によくある事だが、是も矢張り母親が悪いのである、然し斯いふ母親がよく有る、それは頗る八ヶ間敷婦人で何でも兒供を躾けるには放任主義ではならぬビシヤ々小言を言はなければ兒供の躾けは出來ないものだと思へ、箸の上げ下しにも小言を言ふ、兒供はビリリ々々するがその母親の眼の前でこそ言ふ事を守るものゝ、母の見えない處では一向守らない、つまり小言は慣れつこととなりて其の兒供はだん／＼成長するに従ひ不良者となる、親は益々小言を言ひ愈々之を憎み出すも最早躾けの好時機を失したるもので、始めから抑もの教育が間違つて居つたので悔いても及ばないのである、兒供の訓戒はよく程度

と方法とを考へなければならぬもので有つて、随分世間には天性善良の兒供で然も身體の壯健なりし者が、前の様な八ヶ間敷き神經質の母親に養へられたため、品性の不良に變化したるのみならず身體も非常なる病身となつて成長の後社會の活動場裏には到底仲間入りの出来ない様な片輪者とする事があゝる、是れ皆其母親たるもの、鉄け方の善惡如何に因るものであるから、大いなる注意を拂つて其兒供に望まねばならぬものである。世の進歩すると同時に其母親の心掛も亦それだけ進まねばならぬ。世間では千萬金の財産を遺すのを唯一の願と考へて居るものもあるが、眞の遺産は千萬と數へて得可き物質的の財産ではなくて立派な兒供を社會に遺すことである。貴婦人や盧榮の強い凡ての人は互に立派の衣装高價な指輪時計等の競争に熱中して居るが是れは母親としての務から謂へば末の末である。第一の競争は立派な兒供を育てる事である。母たるものは世の進歩するものであることを常に心に忘れず従つて兒供は自分より進歩したるものに育てねばならぬと云ふこ

とを深く念頭に置かねばならぬ。これが母親の責任であると同時に母親に採つて第一の愚安である。

三越呉服店 玩具展覽會を に於ける

觀る

白山生

去月一日より三越呉服店內に開催せられたる玩具展覽會は近來に珍らしく教育的なる展覽會であつた。我輩も忙間を馳みて一日之を參觀して種々な利益を得た。因つて其感想の概要を他方の會員に御報告申すとしやう。

さて此展覽會は大體二部に別れて居つて一部は展覽會(同時に即賣もする)と一部は參考部となつて居る。先づ展覽部の方から見やうと思つて入口を入つたのが去月中旬火曜日の午前九時頃であつた。入口を入つて左に折れて二階への階段を中途

迄昇り更に向ふへ下りて展覽場に入つて見るとあるはく、目も眩むばかりに美しき品々面白き数々、ズラリと並んで嬢ちゃんや坊ちゃん御光來を待つて居る。

ゼンマイ仕掛の自働玩具や、ならべて遊ぶ農村の模型を始めとして、人形、まゝごと道具、電車汽車など何れも舶來の逸品が揃つて居つた。中にも西洋間の飾り立てたる所などは實に美事なものであるが同時に其價の何れも美事なことにも驚いた。ポツ／＼流行の兆ある飛行器もあつたがあまりよいのは見えなかつた。要するに展覽場の玩具は主として輸入品で價が何れも高いものであつた。記者の目に止まつた所では最低價のものでも五十錢多くは壹貳圓以上で間々二十圓三十圓の高價のもの見えた。茲を出て三階なる參考部に行つて見ると茲には諸所より出品せられた參考品がある。古い昔の玩具もあれば遠き國々の人形もある。成る程玩具も廣いものだと感じられた。次に兒童の年齢別に分類せられた表があつた。大體は皆て本誌に載せたことのある大津幼稚園の

調査に多少の加除をした様なものと思へば間違いない。左に記するは其分類と注意書きとである。参考の爲めに

▲嬰兒前期(生後一年)

▲仰臥時期(受動的見聞期、風車、風船、でん／＼太鼓、笈の笛、旗(紙製) ▲安座前屈期(發動的把持期)おし／＼木又は象牙) ゴム人形、ゴム紐、がら／＼(セルロイド製) 大鳩猫等(ゴム又は磁器) ▲起立歩行期(發動的把持期作用)旗布製) 太鼓、笛(竹又は木) ラッパ(木製口金又は象牙) 不倒翁(木製) 馬戲兎鷄等(磁器ゴム又は布製)

▲嬰兒後期(一年乃至三年)

▲前期終の物 玉乗人形、毛人形、負ひ袋(布に綿を入れて製したる物) 金魚鯛蛙等(磁器又はゴム製)、鳥笛、器械の龜の子、器械操、米搗車、桃太郎、天神、達摩等
注意 (一)此時期の兒童は致口本能盛なれば玩具の消毒に注意せざる可からず (二)紙むる爲めに顏料の剥落するものは不可なり (三)此時期の玩具は成る可く木ゴム或は布に綿を入れたるものを用ふべし、但し破壊し難き磁器は消毒に便なれば用ひて可なり。

▲幼兒期

▲幼兒前期(三年乃至七年)動物及び人物畫、動物標本、春駒、器械の蝶、風船、毬(ゴム製) 風、獨樂、繪本、眼鏡(色眼鏡、蟲眼鏡、萬花鏡の類) 親子の面、龍吐水、舟、車、コロツア銃刀、サーベル、燈木、組立人形、あれ様、お手だま、おはじき、きしやこ、まゝ事道具 ▲幼兒後時(七年乃至十年)竹とんぼ、

豆鐵砲、空氣銃、鎗、劍玉、羽子板、器械にて活動する動物、器械にて活動する船車類、磁器を應用せる玩具、ハーモニカ、手風琴、輪（竹又は鐵）、繩、繩飛に用ふ、輪合せ、武者繪、人形、千代紙

注意 プリキ硝子等にて作れる玩具は破壊し易く危険なれば成るべく之を避くべし（二）時季に由りて與ふる玩具を變化せざる可からず（三）賭博に類する物及び凡て偶然の機會によりて争ふものは如何に之を改良するも教育的價值に乏し双六當物の類是なり（四）兒童が自己心身の能力に由りて處置し練習に由りて上達するものを可とす（五）成るべく兒童自ら運動して遊ぶものを可とす單に視聽に訴ふるものに此時期の兒童には好ましからず（六）玩具の整頓は兒童自らなして爲さしむべし（七）一般に破壊し易きものは不可なり簡單にして變化し運動し前にも堅牢にして危険ならざるものを可とす（八）破壊して遊ぶものよりも組織して遊ぶものを可としカラ／＼煎餅の如きは教育上好ましからず（九）會年以上の玩具は理化學を應用せるもの運動具を選ぶを可とし（十）少年以上に在りては材料を與へて自ら構成工夫せしむべし。

次に特に代表的玩具に因りて玩具の教育的價值を分類的に示されたるは參觀せる父兄に採りて利益ありしことゝ見られぬ。其種類は左の十四種であつた。

感覺即ち觸覺養成、視覺養成、聽覺養成、筋肉養成、智力、即ち觀察力養成、好奇心養成、記憶力養成、想像力養成、推理力養成及び感情意思即ち同情養成、美情養成、注意力養成、消極意志即ち忍耐慎重養成、積極意思即ち實行勇氣養成

次に玩具の分類を見童の遊び方に因つて分類して左の九種に別けられた。

遊び方分類、持つて遊ぶ玩具、飾つて遊ぶ玩具、鳴らして遊ぶ玩具、動かして遊ぶ玩具、真似して遊ぶ玩具、練習して遊ぶ玩具、工夫して遊ぶ玩具、不思議な玩具、樂んぞ遊ぶ玩具、勝負する玩具。

是は過日南藝文庫の玩具展覽會以來、高島平三郎氏の採らるゝ分類で極めて新しい分類である。

從來、高島氏の著書には右様の分類を採られたこととなく、嘗て同氏が本會の心理講習會に於て講演された時にも、矢張舊來の心理學的用語を用いたる分類であつたが、併し、玩具を實際に使用し實際に研究して行かうとするには斯る空論的學者めいた分類は何の役にも立たないことは幼児教育法に於て和田氏我輩の論せる所である。然るに高島氏が今一朝にして舊來の分類法を捨て、同氏の主張せる遊戲の上より見たる分類を玩具研究のみに採用されたる其果斷は誠に佩服の至である。玩具研究は是より一層實地に近いて來るに相違ない。斯くして實地に近いて來れば、彼「飛んで來

いなどの様なつまらぬ玩具を無上の玩具の様に寝め立てる空論は出なくなるに違いない。

次に玩具選擇の標準として次の様なものが書き出されて居つた。併し。是は素人おどかしで、何も知らぬ新聞屋などは用意周到至れり盡せりなど云つて居るけれど、決して左様のものではない。玩具には前にも種々な分類のある通り色々な種類がある。而して是等の種類の各のものは夫れ々々特種の性質本領を以て居るもので、従つて玩具の選擇と云ふものは其玩具々々に就いて其屬すべき種類の性質本領に照し其教育的價值の上よりして種々なる條件があるもので甲の玩具に備ふべき條件としたことも乙の玩具に於ては却つて備へざるを可とすると云ふ様な場合がいくらかあるもので、此様な千遍一律何れの玩具にも共通の條件と云ふものは立つ可きものではないので、是は畢竟素人おどかしに過ぎないのである。

因に記す。飛んで來い」の玩具は今より七八年前坪井博士が本會の總會とかに於て既に語されたものであるが當時誰もあまり興味を持たなかつたものであるが。夫れが如何なる理由に因りてか、近頃三越に於て賣り出されたのであると會員の或

人より通信があつた。仍て本會の元老連に聞いて見た處が矢張左様であると語して居つた序でだから記して置く。

いや話が横に入つて飛んだ攻撃となつたが、併し、大體に於て何と云つても三越の仕事である。近來にない有益な展覽會であつたと思ふ。併し、茲に一つ遺憾なことがある。と云ふのは前にも記した通り此展覽會は三越の主催だけに即賣せらるゝ展覽品が何れも貴族若くは富豪向きで平民的のものは一寸もない。參考部の方を見ても矢張其通りである。年齢別分類、遊び方分類等も皆申譯に數種づいの玩具を並べた丈で現在我國で盛んに賣られて盛んに教育的効果を擧げつゝあるものとしては唯表の上多少の名前が見える丈で實物は少しもない。是は此會の大なる缺點である。由來我國の玩具は價尊からざる三文玩具に於て大に教育價值あるものが尠くない。吾人玩具の實地的研究をするものは下級玩具店若しくは縁日等に於て盛んに賣られつゝある玩具に就いて大に研究をする必要があるのである。三越呉服店內の玩具研究會が此點に注意を向けないのは商賣としては當然であら

うが研究の公平を失して居るに違いないことである。文學士倉橋惣三氏の談話なりとて毎電の報ずる所に因つても次の様なことがある。(多少無關係の處もあるが第七項に注意して讀まれんことを)

大道玩具の改良

①嬰兒が何でも物を口に入れるのは、生れて直ぐ乳房を吸ふので、唇の感覚が最もよく發達して居るからである。故に此時時代の玩具としてはおしやぶりに當る。

②クロスといふ玩具學者は「大人が煙草を吸ふのも畢竟パイプを玩具にするのだ」と言つて居るが、成る程パイプは、嬰兒のおしやぶりに當る。

③おしやぶりの時代からがらに移つる。此からがらには有史以前からある玩具で、今日埃及の古墳を發掘すれば、貝殻を合はして中に砂を入れて造つたからがらが幾らも見出さる。

④からがらは嬰兒の最も好むもの、之を握つて振れば鳴る。即ち握るといふ觸覺、音を聞くといふ聽覺形や色をおもしろがる視覺、此三者が凡て此一つの玩具に備はつて居るので、世界各國之れのない所はない。併し之が果して理想的のものであらうか、此上發達の餘地はないであらうか。

⑤近頃三越の玩具陳列會と云ひ、來春開かるべき農商務省の玩具展覽會と云ひ、玩具に對する研究の漸く盛んになりつゝあるのは喜ばしい現象であるが併し所謂玩具改良論者の多くは、四五歳位の稍發達した子供を標準とするのみで、一二歳以下の嬰兒に持たすべき物に就て餘り注意を拂はないのは遺憾に堪へない。故に子供の想像力や注意力、模倣性、智識等を養成すべき精巧なる玩具は出来るが、一二歳以下の感覚を養成すべき玩具は、矢張り

普の儘である。

⑥又値段の高い立派な玩具に就ては、世人も注意するけれども、彼の大道具玩具と稱する三四錢止まりの平民的玩具に對しては殆んど顧みざる者がない。而かも兒童教育の上から言へば、此大道具こそ、大なる影響を及ぼすもので、此方の改良が急務である。

⑦何故なれば玩具屋にある高價な玩具は必ず、父兄が選擇して貰ひ與へるから、害がないけれども、大道玩具は多くは子供が自身で買ふので、萬一夫が悪いものであると、意外の害を齎らすのである。

⑧殊に大道玩具には廢物利用のものが多く、縱令構造の上に何等の非難なしとするも、中には種々の惡感化を與ふるものがあるから私は益々此方の改良の必要を認める。誠に尤もな注意で實地教育家の大に注意す可き所である。

子供と活動寫眞

文學士 倉橋惣三

△活動寫眞は善く使へば、子供の娛樂として至極上乘なものである。併し興業の活動寫眞に就ては悉く賛成と云ふ譯には行かぬ。而も子供は活動寫眞の名に誘はれて何でも彼でも見に行きたがる

又日頃注意深き家庭でも活動寫眞と云へば何の差別もなく許すのが多い。其處で色々の弊害も起つて来る。

△其第一は作ひ易い夜更しの弊である。之は活動寫眞に限つたことでないが、子供の娛樂に夜の時間を更ふのは考へ物である。大人でも寄席芝居に夜を更した翌朝は乾度氣が鈍いものである。況てや規則正しい就眠時間を要する子供の身體には特に此夜更しの害が激しい。休日の前夜ならばと云ふ人もあるが知らないが、其とても望ましいことではない。一體娛樂の爲に時間の規定を破ると云ふ其事が既に善くない習慣を爲すのである。最も活動寫眞は大抵晝夜二回になつてゐるが、其の夜の部までが多數は子供のお客さんだから困る。

△弊害の第二は觀覽料の廉い所から其樂みに淫し易いことである。内の兒は活動道樂でと笑ひながら話して居るは様方も少くないが、これ實は笑ひ顔ではない。此の所謂道樂の爲に子供の頭は少からず疲らされる。何の娛樂でも多少疲れないものはないが、活動寫眞は殊に甚だしい。只さへ場内

の空氣の悪い處へ、強い動搖する電氣の光線を暗中で見詰めるのだから、生理的に眼と神經が疲れて来る。殊に此頃では度々と競つて長尺ものを映し、其れも多くは冒險とか悲劇とか、或は滑稽物にしても、子供に取つては随分複雑なことが多いので、心の疲れも、通りでない。其またさかならば兎も角、一月何度一週幾度と云ふ様になつては其疲れも次第に大きく目に見えて来る。斯う云ふ子供が肝心の學校ではボカンとして居たり欠伸をしたりするのである。但し之とても亦活動寫眞に限つたことでないが、例の面白くて廉い所から他の娛樂よりも淫し易い危険が多いのである。

△第三には又活動寫眞の持前として、其興味餘りに忙しい變化に偏する處から始終斯う云ふ印象に慣れた子供には一つの物に靜かな長い注意を凝らすと云ふことが困難になる虞がある。昔の落付いた影繪などに較べると、面白だけに其低さが亦甚だしい。只さへ氣の忙しい都會生活をしゐる子供に、更に斯う云ふ同弊の伴ひ易い娛樂

に耽らすのは、注意を要することである。影絵から幻燈、幻燈から活動寫眞と、一方には子供の心の活動の増に従つて、其の娯樂の活動性も増て來るといふ理合もあるのだらうが、其の弊も亦加乘することは避ける様にしなければならない。

△第四に尙一層困ることは、活動寫眞の材料である。素より商賣物の興業に向つて、存分な注文も無理な話であるが、中には随分いゝものもあるに、中には亦顔を聳めさす様なものが少くない。其も甚だしいのは警察の取締で嚴重に監督せられるのであるけれども、そこ迄に至らない處で、少くも甚だしく非子供向と思はれるものが屢ある。實際生きた人間には人の前で演じ兼ねる様な仕草でも、寫し繪といふので無遠慮に現れて來る。全體活動寫眞といふものが、種々難多のことを自在に混合せ作り上げて何でも目先の變るやう見る人の意想外に出るやうと、幾らでも奇に馳せ、普通に遠ざかつた山澤山の材料を拵へることの出來る處から、事々に並外れの好奇心を刺戟して居る。活動寫眞の長所も此處にあれば又短所（子供の爲

に）も茲に生ずるので、單に卑猥に類したことの多いといはず、下等な滑稽や露骨な殘酷、又は奇想天外の離れ技などいふものが、在來の芝居、曲藝などよりも、づつと飛び離れたものが多い。そこで斯いふものを始終楽しんで居て、好奇心の過度の満足に慣れて來ると、普通のことでは面白くなくなつて來る。それが嵩すれば興味といふものが荒んで來る。眞面目の課業が厭になる。

△殊に此頃の流行が、殆ど皆と云つて善い位芝居種になつて來て、鳴り物入、聲色入と云ふ様な大仕掛は活動寫眞の興業としては發達であるが知れないが、益非子供向のものになつて終つた。其も一時はお伽芝居物などがあつて、之れでこそ活動寫眞の善用だと至極賛成に思つたのであつたが、此頃では其類のものも頓と行はれない様だ。元來子供に普通の芝居を見せる可否に就ては種々のことをいふ人もあるやうだが、少くも非子供向きと云ふ點に於て不賛成を唱へなければならぬ。即ち活動寫眞に寫し出す芝居にしても其作の巧拙狂言の良否は先づ第二の問題として、根が大人の成

熟したる理路情合を基にして出来て居る大人向のものの子供の心に適當しやう筈はないのである。△假令ば例の毎々御喝采の金色夜叉熱海的一幕或は不如歸の返子海岸の場と云つた様なものは子供が之を見たとして直接に悪いことを覺るといふのでは無いが、併し其筋合が全然子供経験や感情に相應したものではない。従つて其眞の意味合が子供に分らう筈もなく分つて呉る様では却て困るのである。而も斯う云ふものを見慣て居ると其が亦面白くなつて、特に女の子などは厭に一部分だけ大人びたませた感情が養はれる。又一方には斯う云ふ類の強い刺激によつて、年齢不相應の経験を覺え娛樂を索める癖がつくと、自然的の子供らしい遊戯娛樂と云ふものに興味を失つて來て子供の心の自然なる發達に取返しの付かぬ大きな害を與へるのである。之れこそ實に憂へねばならない。況してや筋の下等な脚本などを見て、色々下らないことを覺えるに至つては其の害はいふ迄もない處で、此の芝居と云ふものが今迄の様に大きい劇場の中でのみ演じられて、高い觀覽料を要るし、

子供などの少くも單獨で行く處でないことに限られて居る間は此の害が比較的にかつたが、安い觀覽料と短い時間とお子供歡迎の呼聲とで、是等の害を子供の社會に撒に近づけたといふ點は、活動寫眞の流行が齎した大いなる惡結果と云はなければならぬ。△扨て右の様に述べて來ると、活動寫眞が全く惡いものになつて仕舞ふ様であるが、勿論左様な譯ではない。つまり良く用ひれば子供の爲に益の大きい丈け其丈けに、斯様な種々の弊害も伴ひ易い。と云ふことを考へて見た迄のことである。そこで實際上の問題としては要するに誰も氣のついて居る次の三つのことになる。△即ち先づ興行者の方への注意としては、場内の衛生上の諸設備を完全にすることは勿論、是非寫眞の材料の選び方に教育的（といふと堅苦しさうだが勿論娛樂たる範圍の内）で注意を加へて貰ひ度いこと。若しさう一概にも出來ないと云ふことなら大人相手のものと、子供相手のものとを別々に拵へて貰ひ度いこと。

△次に家庭の方への注文としては、第一子供の活動寫眞道樂を過度ならしめぬ様に制すること。第二、夜の活動寫眞へやるにしても、娛樂の爲に規定の就眠時間を破る様のことにはさせぬこと。第三子供を獨りでやる時は勿論、或は自分が連れて行く時にでも、先づ其の活動寫眞が如何なる材料のものかと云ふことを善く調べてからの後にすべきこと。大人向と子供向との別が出来た時に、自分が子供の方のお相伴はしても、子供に大人向の方のお伴をさせぬこと。最も之は單に活動寫眞に限らない。一獨の遊覽が皆さうである。乳呑兒を抱えて人込雜沓の中へ物見に行く若いお母さん、三四歳の子供を連れて寄席などへ来て居る人、其の他此の類のことは往々にして見受けるが甚だ怪しからぬことである。

△尚又當局の取締の上に於て、從來の諸種の注意の他、總ての娛樂的興業物、殊に見物人の種類の不定に廣い此の活動寫眞の如きものに對して、子供向と否との別を嚴重に指定なり制限なりすることは出来ないことであらうか。何しろ、活動寫眞

の如き比較的新しい而も社會的關係の甚だ小な問題に對しては教育的又社會的等の諸方面から充分研究する必要があると思ふのである。(報知)

家畜の馴らし方を 見て

芙蓉子

十七世紀の中葉に出でたる教育改革家の急先鋒たる獨乙の「コメニウス」と云ふ人は當時の不合理なる教育の方法を痛罵して自然は能く萬物を化育する、人間も此自然界に生活する以上は自然の逆行を觀、自然の活動を察して、其處に人類教育の方法を見出さなければならぬと絶叫したそうですが全く鳥や獸の生ひ立ちを察して見ても心ある人には如何に人類の子供は教育せらる可きかは判ることで御座います。注意した人は犬や猫を馴らすにつけてもいろ／＼と其性能を察して之をしつける方

法を講じて居ります。其如何なる點に注意して、如何に之を導いて行くかと云ふことは吾々幼兒教育に關係するものに採りては中々參考になることが澤山あります。左に記するのは某愛猫家が猫の仔をしつけるに就いての實驗談です。一場の話柄とのみ聞き流しても、相應に面白いことで御座います。此話に鑑みて人の子を教育する方法は何處に見出す可きかと云ふことを思ひ合せると又一層の味がある様に思はれます。御參考の爲めに其話を左に掲げて見ませう。

○日本の猫は種類の中で最も柔順なものです。従て鼠を捕るといふ點に於ては獨逸産のものなどよりも幾分劣る氣味がありますが猫を愛育すると云ふ點から見ると却々興味が深いやうです。然るに多くの家庭が大概之を放任して育てる爲めに、お客様の膳の前へノサバリ出て鼻を掻きたりやお客の臭ひでもすると切りに啼き立て、強要むたり、甚しいのは一寸眼を離して居る間に機敏に魚や肉を掠て行くやうなのがあります。幸に來客が愛猫家であれば可けれどもお嫌ひな方杯には頗る御迷

惑な譯です、ですから猫兒の時分から餘程大切に育てなければなりません。御承知の通り猫は人間と違つて智識の發育が速いので、人間で八年も十年も要する所を五六ヶ月で餵けなければなりません、それ故一層絶えず監視して餵けないとズンズン獸的性情が發育して到底救ふことが出来なくなるものです。

○兒猫を母猫から離すには大概生後一ヶ月位の所が宜しいといふ事ですが、實は廿二三日位から離しても可いと思ひます。中には眼を開いてから一ヶ月といふ方もありますけれども、それでは母猫の悪い癖杯が感染しますから成るべく早く離した方が可いやうです。

○此時分に與へる食物は、牛肉で葛湯を拵らへて大抵冷えた所を與へるが宜しい、生後二ヶ月頃からは粥に鯉節を攪拌したのを與へて、先づ其頃までは魚肉も成るべく與へないやうにするのです。お肴杯の臭が致しますと、もうそろ／＼鼻を動かして欲しがりますが、決して與へないが宜しやうです、魚肉を食べさせますと必と便が軟かに成て

ツイ下痢を起すやうな事が出来て、自然糞仕の悪くなる憂ひがあります

○母猫から離してからは、食事の場所を一定して其場所以外では一滴の牛乳も食べさせないやうにするのみならず、食物を翻して置くとそれを拾つて食べますから、注意して落して置かないやうにせんければなりません、是がお行儀を覺える基になるのです。

○粥を與へるやうになりますと少々宛肉類を食べさせますが、それも當分は魚肉許りで獸鳥肉は不可ません、旋て生後三ヶ月半も経ちましてから始めて牛肉の軟かなのを與へるのですが、生の肉は魚肉にせよ獸肉にせよ決して與へてはなりません、雷に行儀が悪くなる許りでなく生の肉を食べつけますと鼠を捕らなくなりす

○夏生れた猫は虫を捕つて仕様のないものです一度虫を捕る所を見たら、蜻蛉でも蝶々でも捕へて來て其羽なり體なりに唐辛水をつけて猫の前へ投て遣るのです、猫はそれを知らずに甜める、辛いのので驚いて退つて了ふ、三たびも斯うして遣れ

ば最う懲りて捕らなくなりす。

○又冬になると猫は至つて寒がるもので兎角床の中へ這入りたがりますが、之は畢竟猫の床を暖かくして遣らない爲ですから成るべく猫の床を完全にして遣る事が必要であります、完全にと云ひましては別に大した事は要りませんが猫の床は大抵「く」の字なりに隧道を造つて其中央に懷爐を入れて遣るのです、懷爐は裸で入れて置くと危険ですから薄い蒲團の下に入れるが宜しいやうです、湯婆ならば尙一層妙ですけれども面倒で仕様がありません

○幾ら猫でも餘り無暗に叱るのは宜しくありません、殊に矢鱈打つたり叩いたりすると終ひには性質が遲鈍になつて根性が悪くなります、ですから時々人の顔色を見てコン／＼と悪いことなどを致します、殊に猫は背中の方を打つのは甚だよくないやうです、昔の人は猫がナイラを起すとか申して嚴ましく云ひます何でも打たないのに限ります

普通何所の家でも猫の食事を時無しにさせます

が、あれは最もよくない事だと思ひます、第一猫の衛生の上に甚だよくありません、殊に此時無しの食事の癖がある爲に絶えず物を欲しがります、始めて牛乳の葛湯を與へます頃から、何時と何時といふ様に癖をつけて、其時間の外は決して何ものも與へないやうにすれば終ひには習慣性になつて了ひます

○それでは何時頃に與へるかと思ひますと、家庭によつて各々違ふ事でありませうが先づ一日に五度位やるがよいと思ひます、考へた方は三度位が可いと仰有るやうですが、寧ろ少々宛何度かに與へた方が宜しいでせう

○時間は前に申します通り家庭によつて違ひませうが、夜は必ず七時頃に一度與へる事にしたいものです、猫の方では夜中でも起きて居ますから随分とお腹も空きます、それなら十時頃に與へても可いやうですけれども、それでは鼠の番をしなくなり七時頃に與へて置きますと恰ど鼠が暴れ始める一時二時頃に成てお腹が空いて來ますから自然鼠の番をするやうになります

猫のお皿は毎日洗はない家がありますが、あれは衛生上甚だ宜しくありません、最も酷いのは一週間に一度位しか洗はない人がある、那樣のは猫の爲許りでなく人間の爲にも不潔で見るからに悪感を催します、ですから猫の皿は食事毎に洗つて遣らなければなりません

○次に猫は至つて物を食べる事が下手でして屹度糞したり穢したりします、元來猫は大括と違つて必ず食物を食ひ残す癖があるものですから、一度に澤山與へても食べ盡すといふ事がない、それ故食物は面倒でも少し宛五度位に分けて與へなければ不可いのです

種痘の心得

S K 生

今年の四月に改正になつた種痘法は、愈來年の一月一日から施行されます、從來の規則よりも大層難かしくなつて迂かりして居ると罰金を食はねば

ならぬやうなことになるから、人々が注意して居らねばならぬ大切な簡條を分り易いやうに左に記して見ませう

▲第一期種痘 一番最初の種痘は子供の生れた翌年の六月までに市岡町村長から種痘の期日を指定する筈になつて居りますが、可成ならば生後百日位に近所の醫者に開ういつて種痘を貰ふやうにする方が子供のために安全です、遅くとも指定期日までは假令市岡町村長から知らせがなくても種痘を置かねばなりません

▲第二期種痘 夫から二度目の種痘は數へ年の十歳になつた六月までに、これも知らせがなくても種痘を置かねばなりません、開うして第一期、第二期とも醫者なり吏員なりから見せに來いと言はれた日に連れて行つて検診を受けて種痘の證書を貰つて大切に保存をして置かねばなりません、又市岡町村長から指定されるまでに自分で醫者に種痘を貰つた時には善感不善感くても種痘をしたといふ證書を貰つて、之を市岡町役場に届出ねばなりません

▲事故が有つた時 病氣其の傳の事故で種痘期日までに種痘することか出來ぬ時は其の理由を市岡町村長に届出た上猶豫證といふものを貰ひ、猶豫期間が過ぎてから三十日以内に受けると手續もあります、又第一期の種痘が不善感かつた時は翌年の六月までに更に植ゑなほして貰はねばなりません

▲監督者の義務 學校、育兒院等の生徒や院主や又教育、監護等のため自分の宅に預つて居る未成年者及び小僧下婢、子守等の雇人が數へ年十歳になつた時は其の監督者や雇主は第二期の種痘を受けさせるか又は保護者に督促して種痘の義務を終へさせるやうにせねばならぬ、尙是等のものを新に入院させたり雇入たりするときには種痘が済んで居るか否かを最初に調べて、若し済んで居なかつたら六箇月以内に必ずさせるやうにしなければなりません、夫れが二十歳以上のものならば雇主に責任はないが二十歳以下のものでは其の手續を怠つて居ると雇主が罰金を科せられます、多數の工女を雇入れる紡績會社などは餘程注意をして居るものと手ぬかりが出來ぬこと

冬季と病氣

醫學士 前田 實氏 談

▲證書の提示 種痘證は大切に保存して置いて市町村吏員、衛生官吏、警察官吏などに見せろと言はれた時には何時でも見せなければならぬ、若し紛失をしたときには市町村長から證明を貰つて置くが宜しい

▲舊法と新法 改正前の種痘規則によつて種痘を受けたものは七歳までに種痘を受けたといふことが確に證明されれば第一期を終つたものと見做されます、それで十歳になつた時に第二期の種痘を受ければ宜しい、夫から八歳後に受けて居るものは第二期を終つたものと見做されますから改正規則によつて改めて受けるには及びません

▲お嫁さんとお嫁さん 來年一月一日以後にお嫁さんやお嫁さんを迎へたときに其のお嫁さんやお嫁さんが未丁年者であれば親權者は矢張り種痘の濟未濟を調べて相當の處理をする義務があります以上何の項でも違背すると罰金です

▲夏は胃腸の病氣に罹り易く冬は寒胃、インフルエンザに罹り易いのが御定りになつて居ます、日本では十二月の末から一月二月が時候の一番悪い時ですから一般に用心をしなければ兎角病氣にとつかれ易いものです。

▲素人の方は寒胃もインフルエンザも混同にしてナニ一寸風邪をひきまして位で手當を怠るものですから失敗ことも多いやうです寒胃といふ方は冷い風だとか温度の激變と外部の機械的刺戟の爲め身體に熱が出るのですがインフルエンザは之と全く別で微菌の爲めに病氣が發生するのです。

▲ですからインフルエンザの方は傳染病で其微菌が段々他人に傳播します一昨年と覺えますが我國では大變インフルエンザが流行しまして一家残らず床に就く御隣にも近所にも病人が出來るといふ風に悪い勢で蔓延しました彼の時は日本ばかり

でなく世界中にインフルエンザが流行したのは餘程珍しいことです。

▲インフルエンザの病症といへば發熱、頭痛、吐瀉、などで發熱に惡寒を伴ふのが普通です。そして此病氣を治療し切ないで愚圖々々して居ると兎角餘病を引越し易いもので此餘病といふのが頗る恐しいのです。餘病は大抵三通で腸を侵すのと腦神經を侵すのと呼吸器を侵すのがこれです。

▲呼吸器を侵すと氣管支、小氣管、支肺といふ順序に病症が進んで終には反逆しのつかぬ病氣になります。寒胃の方は矢張發熱とか頭痛とかを起すのです。これは微菌でありませぬからインフルエンザ程に恐しくもありませぬが然し寒胃に罹つて居るとインフルエンザの微菌を呼易い譬へてみれば戸締の無い家のやうなものでともすれば盜賊の恐があります。されば寒胃だからとて中々輕々しく思つてはなりません。これ等の病氣に對する養生方法及び子供方の冬季に於ける取扱法を次回に申しましやう。

▲寒胃を豫防しやうと思へば空氣の乾燥して居る

日などは室内に水蒸氣を含ますやうに心懸れば宜しい。之は水蒸氣で鼻腔又は咽喉内の粘膜を潤してカルタに覆るのを防ぐのであります。然し斯様な豫防策は御隠室や赤坊で出来ることで働盛りの人々には到底實行出来ない話です。それよりかも矢張り冷水摩擦で平生から鍛へた方が宜しい。

▲所が冷水摩擦には大分誤解があるやうです。何んでも冷たい思をすれば宜いと云ふ考から北風の吹き通す場所を殊更撰む人がありますが之は大きな間違です。冷水摩擦は皮膚の抵抗力を丈夫にするのと摩擦そのものの効能と二つあります。ですから婦人の方や身體の弱い方は温湯で摩擦しても確に効めがある譯で無暗に自分の身體をも考へずに亂暴なことを爲るのは却つて害があります。それに又冷水摩擦を初めたらば中止せず、に續けることが肝心です。段々皮膚が丈夫になつて居るのに途中で二三日も休むと抵抗力が其間に少し衰へる所が今度再びやり始める際には前の積でやり出すものだから之が爲め失敗つて寒胃に罹ることがあります。

▲無暗矢鱈に用心して計り居るとビードロのやう

な身體になつて終まうから何んでも積極的療法と云ふことをやらねばなりません少し寒氣がすると思つた時は全身摩擦をやつて體温を呼び起し病氣の發生に逆襲をやると一種の豫防法にもなりますさればとて病氣に罹てから無理をするのは至極危険ですから誤解のないやうに願ひたいです。

▲冬季は浴後寒氣に罹ることが多いですが俗に謂ふ湯ざめを注意せねばなりません浴後は三十分以内に寢就けば決してこれに罹る憂は無い筈ですが兎角管らぬ話などに時を費して病氣を製造するものですから充分の注意が必要で次回の子供の取扱を御話致します。

▲獅子は産んだ子を路へ墮落して助かつた者のみを育て上げると云ふ話もある人間だつて餘り小さい頃から手にかけて過ぎると爲めにならぬなど理窟を述べ立てる人もありますが之は感心の出來ぬ議論です子供が學校に行き出す頃までは充分大事に保護して學校へ通ひ出すのを機會として少々は無理をさしてみるのも身體を鍛ふ譯にならうと思ひます。

▲いくら寒いからとて炬燵は嚴禁せねばなりません炭火からは絶えず一酸化炭素と云つて有害な瓦斯が出て居ますから至極不衛生なものです赤坊を寐かす前に湯タンポを夜具の中に入れ豫め温めて置いて寢かせば充分だと思ひます赤坊の寢姿は假令赤坊が夜具から飛出して風邪を引かぬ丈けに着せて置かねばならないのとして醫學上では春夏秋冬を通じて赤坊には大人よりも拾一枚丈け多く着せるのが原則と言つて宜しい。

▲赤坊は風の強い日とか夜分とかには成可く外へ連れて出ないやうにしなければなりません然し學校通ひを初めた子供などは最早や一通身體も定つて來たのですから随分薄着もさして見ねばならぬ又昔から子供は風の子と言ふやうに寒風にも吹かれさして見なければ却つて弱々しい人間が出來上ることになります。

▲以上申したやうな手心が冬季の子供取扱上に必要でありますが兎角世間では偏り勝ちで嚴重主義の人は赤坊まで寒い目をさして病氣に罹らせ寛容主義の人は惡戯盛りの子供をかばひ過ぎて蒲柳

の質にしてしましますから世の親たる人は此點に
充分の御注意を願ひたいものです。

羽子板の話

湘 南 生

羽子及び羽子板が玩具として價值あるものであることは、屢先識者に因つて唱導せられた所で、今更之を喋々する必要はないが、併し是れは其押し繪の作り方で却つて折角の教育的價值を害される恐れがある、然るに同じ用い方で又同様な體育價值を得る玩具が近頃ボツ／＼賣り出されて來た。それはトンズと云ふもので羽子は支那人の用ふる羽子の通りで我國の在來のものと大體同様で唯羽根の付け方が玉に押したる袖に一所に縛り付けるのではなくて、是は玉の上部に圓く植えるのである。それから、之を突くものは恰もテニスのラケットに能く似たもので唯作り方が粗末なものと材料が粗末のところが異なる丈である。且其重さは遙に通常

の羽子板より輕いから小さい子供にも使へそうで幼稚園などには至極危険もなく價も廉くて宜しい様である。吾人は我國在來の押繪羽子板を取えて排斥もしない。若し其押繪其ものが教育的になるならば、決して之を忘むものではないが、併し同時に此新代用品「トンズ」をも普及したい様に思ふ價が僅かに拾五錢で羽子板と同様に遊べる、否却つて普通の羽子板よりは使用し易して面白い様である。併し又一方から云はせると普通の羽子板も捨て難いものであると云ふ人もあらう。けれどもそれは多くは大人の玩具、殊に藝妓などの縁喜的玩具としての話で教育眼から見れば強いて保存したいと云ふものではない之と同等な教育的價值を持つたもので經濟的な代用品があるとすればそれを採つても別段差支ない譯である。普通の羽子板が別段教育的のものでない云ふことは次の話を見ても知れることである。此話は昨年の暮に或其道の黒人が話したものだとして通信社が報じ越したもので羽子板の過去と現在とが能く判る序でだから左に掲げて讀者の參考に供する次第である。

今年の羽子板の相場は大體に於て安値でござります、それは桐の相場が一般四分高値になつたにも拘はらず切れ地の方が不景氣の爲め非常に値安を表はした爲とであります。ですから値段の割合には見榮の好いものが出来るさうですが羽子板の様なものは世の中の景氣不景氣と特別に關係を持つて居りますから一般に言へば羽子の景氣は悪うムいます。便宜の爲め市内の羽子板商組合で決議した小賣相場を書きます。組合は毎年十一月四日に淺草公園内の自馬で小賣相場を極めます、幹事は日本橋で有名な光月其他で此相場は即ち此時の決議なのでムいます。

尺二並四十錢上五十五錢▲尺三並五十錢上七十五錢▲尺四並八十錢上一圓五十錢▲尺五並一圓六十錢上二圓極上二圓五十錢▲尺八上々三圓七錢極上四圓卅錢▲二尺上々五圓上六圓五十錢相場は右の通りでムいますが何處の小賣店でも何處の年の市でも此の相場で賣るのではないのです、店によりまして安く賣る所も高く賣る所もムいます、特に年の市など來ては殆んど相場なし

で三圓のものが五圓に賣れたり五圓のものが十圓に賣れたり致します、畢竟羽子板などは際物中の際物で殊に一種の縁喜物でムいますからとららかと云へば虚榮を好み縁喜を好む藝者などが淺草の年の市などで高いものを縁喜が好いからと云ふので高いと知り乍ら其儘買つて終ひます、一般の買人から言へば悪い習慣でムいます之はどうも仕方ありません、淺草の市などで俳優似顔の羽子でも餘り値切りますと若者共は口の悪い人達ですから「千兩役者だ。一晩買つて見ろ五兩や十兩では承知されねえぞ出直して來い」とか何とか言はれますから値切るにも餘程甘くしませんと随分莫迦を見ます、市は淺草の市深川の市が市内で一番早く立ちます一番早く立つ市の相場が一番高く押詰つて立つ芝愛宕下の市日本橋區藥研堀の市などの相場は法外に安いものです然しそれでも随分思ひ切つた値を言ひますから此等の市では何でも構ひませんから出來るだけ値切つて遣る方が宜しうムいます。

年の市は前書きしました通り淺草觀音のが一番先き

で十七、十八日の兩日に決定しました、十四、十五の兩日は地割で大騒ぎでゐりませう。それに今年には神田明神の境内に久し振りで市が立ちます。此處の市は五、六年以來中絶して居たのですが、神田警察と地主と地借との間に今度漸く交渉が纏つたのだそうです。序に申しますが、浅草觀音の市には羽子板店が五十二軒出來るのです。随分綺麗な事だせう。年の市のお話はこれだけとして羽子板と俳優の顔及羽子板の繪とお話に移ります。▲元來羽子板は徳川時代に京都から流行し初めたもので、享保羽子板とか、文化羽子板とかは古い御家なとでは往々見掛けるものでゐます。三越の玩具考品陳列場にも其中の二三のものがある様です。此外西京羽子板とか左義長式祝羽子板とかありましたが、昔は今の様に押繪などはありません。皆羽子板の上に胡粉で描き上たもの許であつたのです。これも日本三景、内裏の歌合せ、大極殿草木花卉の如き類が多く人形繪杯は餘り流行りません。様でした、それに羽子板は例へて見ますと一寸古代鏡の様な恰好でゐますから羽子板の天地に孤圓を描

き其中に風景などを彩色し鏡に見立てお嫁入道具の玩具の中に加へたものださうです。殊に面白いのには西京羽子板でして之は手に持つ柄の少し上に九ツ許りの穴を穿ち、其中に鈴を入れて飾つたものだと云ふ話です。兎に角羽子板は女の玩具ですから近頃の様に臺に男の押繪特に俳優の似顔などが飾られるのは當然の事ではありませんか。此俳優の似顔が流行り出しましたのは古い人形羽子板に殿様奥様三所様と云ふ胡粉繪が盛に描かれたのが其流傳で現今では羽子板と云へば殆んど俳優の似顔と云ふ位になりました。昔から女はどうしても男が好きで特に近頃の御婦人は妙に俳優の様な柔化したものを好む様になつたと云ふ好固の實例が羽子板の繪に表はれて居て趣味ある事柄ではあります。まんか。羽子板に俳優の似顔は附きものである事は前申し通り。それならばどんなのが今年に當りでゐますか。先づ各羽子板店などを御尋ねして聞いて見ますと大體に於て老人連よりも若手俳優の似顔の方が賣口もよく注文筋も多くあるさうでゐいま

す。どうしても面白現象はありませんか。俳優の似顔と云へば直ぐ吉右衛門とか羽左衛門とかに白衣の矢が立ちます。先づ羽左の文豊や斬られ與三郎はどうしても賣口が好い方です。羽左の文豊と與三は歌舞伎の當り狂言ですから賣口の好いのは當然ですが源之助の斬られお富、左衛門の九橋忠彌、高麗藏の仲國、仁左衛門の夕霧、梅幸のお輕、六代目菊五郎のめ組の辰五郎等も歌舞伎市村座等の當り狂言に出たものですから評判の好い方です。此外駒助の似顔八百藏の似顔も中々莫迦に出来ません殊に駒助は當時急に賣出した俳優ですから花柳界などは駒助／＼と言つて大した勢ひださうでいます。以上は舊俳優の似顔で、いまが新俳優の似顔は至つて少なうります。最も新派劇の役では羽子板としては實際趣味が少なうでせう。十軒店初め各羽子板店を一通り見て來ましたが新俳優の似顔としては白木屋の羽子板都伊井の出世景清二尺物で三圓七十錢と言ふのが一面しかありませんでした。それから二人立と一人立と何れが賣口が好いかと云へば之も相違らず一

人立の方が宜しいさうです。以上は大體の羽子板の似顔の品評で、わたくしの好みを申したなら新俳優は兎に角舊俳優の中では六代目の瀧夜又姫、吉右衛門の光國、梅幸の岩嶽、羽左の三浦芝蔭の時姫、羽左の斬られ與三、源之助のお富、左衛門の九橋忠彌などで、而して之は只考迄で好き嫌ひは各人各様ですから、數多い羽子板の中から一番好きなのを選んだ方が宜しいのは勿論です。羽子板の中で一番賣れ口の好いのは、俳優似顔で之は舊者遊女を中心として重に下町向でありましてお屋敷向きでは、ムリません。お屋敷向き山の手向きとしましては、勿論見立風俗ものでムリませう。見立風俗といふのは生娘の押繪で之は、仲々品の好いものでムリです。此外今年から作り出されたものですが、時代風俗の押繪も先づ嚴格な家庭向きとして差支へないものと思ひます。そして之等は單に品の好い許りでなく、似顔の羽子板などに比べて價格も安うります。羽子板は元來女の玩具でムリますから普通の御家庭などて似顔がどうかう

の一言つて條儀の臨評などをするのは喜ばしい事とはお互ひ様に思へないではありませんか。而し之は只家庭道徳を主とした考へを一寸述べて見ただけで、羽子板といふ手工美術品に對して其價值を上下するものでは有りません。三越も松屋でも其他各羽子板店でも今年から羽子板の意匠に就て餘程苦心して居ると云ふ話で、いますが流石に段々と好意匠のを見受けられます。それから白木屋の意匠部では今年から天祿天平式美人羽子板を數十面陳列しましたが、之は畫一面に網縷を張りつめ色模様の浮し繪で漢舞の所などは中々高尚優雅に出来上つて居ります。價格は一圓七十錢から三圓位の迄で一面宛白桐の箱に收めてありますから、御違ひ物としても結構でござります。▲以上で羽子板の概略をお話しましたが、要するに美術品として見た羽子板は此の七八年間に長足の進歩をした者と云へます。以前には衣裳でも髪でも今日の様に意匠が細かくはありませんでした。たが五六年以來臺地には模様繪子の派出なを用ひて人見を牽き。衣裳は絹地縮緬地から下つて木

綿地に至る迄を思ふ様に使ひ分け。殊に髪のように在來の漆塗縮子地などを壓倒して熊の毛を用ゐて本式に見せかける所などは進歩中の進歩で、います。▲それから是非一言云つて置きたい事は、顔などの顔の畫工の事で、羽子板の押繪畫工は東京に現在二人しかありません。一人は淺草の周磨で一人は本所の辰さんです。兎に角何千といふ羽子板の顔の畫工は二人きりですから、値段も一年と騰る許り。今年などは一面で相場は三十錢ださうです。▲衣裳の職工は東京に居りますもの全部で六十人之等は一年中此羽子板で生活して居るのです。大した收入があるものさうです。▲羽子板の御話しはこれきりですが、來年は戌年の特にお目出度い年でもあり綺麗な羽子板を買つて楽しく年をお迎へなさい。以上は某氏の話であるが、尙序に羽子板製造に就いて大和屋公山等の話だと云ふのを掲げて見ると、職人等の觀劇、尺以下の小物には俳優の似顔も何もなく、只名計りの押繪に目鼻を描て板に打付ける許りであるが、尺五寸以上の物になると一々俳優

の似顔を取るので人氣俳優の出る各劇場には職人が
缺かさず見物し殊に當り狂言などは三度も四度も
見物して俳優の着附より科まで仔細に書取つて來
るものである斯る一方には
▲面相師 即ち繪師も職人と同じ様に芝居を見物
して此處といふ處を描寫し又は職人より注文を受
けて下繪を書くと職人は又意に滿たない所があれ
ば幾度も描き直させ愈々是で好いといふ事になつ
て始めて押繪に取掛り其押繪が出来上ると再び之
を繪師に渡して顔を描かせる而して此出来上つた
ものを更に
▲上繪師 に渡すと上繪師は又下繪に依つて友禪
模様物其他を描き夫が濟むと職人の手に依て組合
せ茲に始めて板に打附けるのである
▲小紋型の新調 職人が苦心するのは其着附俳優
者が小紋を着たのに綿を使つては幾等似顔が好く
出来て居ても着附が違つては少も映らんから其小
紋の出来合があれば好いけれども夫がないと態々
更紗屋に注文して其小紋の型を彫らせ之を染めさ
すのであるが此型紙は圖紋一組であつて中々高い

金を拂はせられるとの事だ
▲木綿らしい絹物 又俳優が其役に依ては木綿物
を着る場合もあるけれど押繪には木綿を使つては
笨えなから此時には木綿らしい絹物を使ふ環隨
分苦心するもので畢竟押繪が厳く其俳優に似ると
否は顔坏も大事ではあるけれど最も大關係のある
のは着附に在るからであるさうな
▲上等物 一體羽子板の製造は年が明けると直ぐ
に又取掛るもので普通五六千乃至一萬位から少な
きも千圓位の原料を仕入れ春から其意に掛けて拵
へ上げ嵐の市に持出すのであるが實際之を賣る時
期と云へば十日餘しかないものであるから時好に投
せんと苦必するもの尤もの事で殊に上等物は九月
以後の當り狂言を選ぶのを常とし職人等は其頃の
景氣如何んを見て上等物の製造に着手するとの事
である



保姆の修養

寒 月 生

近來幼稚園の教育に關して、世の識者が注意を拂ふこと漸く多きを加ふるに至れるが如く見ゆるは喜ばしき現象である、或は幼稚園の制度の研究となり、或は慈惠的保育場の獎勵となりて現はれたる其面目の議論がある、又昨年末に於ては、保姆の待遇に關して法文が現はれた、即ち師範學校官制を改正せられて調導の次位に保姆を加ふることとなつた、又別に小學校本科正教員の資格を有する保姆に對しては、小學校調導と同一の待遇を與へらるる規定を設けられたのである、保姆の待遇問題に關しては、從來屢々議論せられ、遂にフレール會の總集會の決議を以て、其の筋に建議をした事もあつた様に聞いて居る、又某々の有力者は、此の間に立ちて大に奔走盡力せられたのである、今や其の論議せるところの問題は、漸く解決せられて、保姆の待遇の昇進を現實にするに至つたの

は、誠に愉快に感ずるところである、加之、此の規定によりて幼稚園教育が一般教育系統の内に更に一步を進むるに至つた、換言すれば國家的意義が漸次加はること多きに至つたものと考へらるゝのである、從來の幼稚園は其の實際に於ては、教育上幾多の貢獻するところありしにも拘らず、其の教育者たる保姆は如何なる資格を有するものといへとも、(女高師の保姆を除く)國家の公人と認められなかつたのである、余輩は保姆が單に公人としての待遇を受けるに至つた事のみを喜ぶものでない、幼稚園教育者たる保姆の年來の苦辛經營空しからず其の教育上の功績漸く認められて、遂に小學校教員同様に國家の待遇を受けるに至つたであらうと信じて、中心より慶賀するのである、實に這般の規定は幼稚園事業の上に一新紀元を劃するものであると言つて可なりである、余輩は之の新紀元を迎ふると同時に保姆たるものは深く自ら戒めて職務の上に、自家修養の上に、更に一段の努力を加へねばならぬと信ず、之れ蓋し保姆當然の義務である。

一體、幼児教育の事たる、知識を傳ふるのでもなければ技能を授くるのでもない、説くところは童話や作話である、示すところは豆細工とか粘土細工、常にお定りの唱歌を唱へて遊戯三昧に其の目を導くのが、幼稚園教育の實際である、されば若し之を世の俗眼を以て眺めたならば、随分馬鹿氣な業務と見ゆるであらう、體よき子守位にしか思はぬであらう、保姆の學徳才能の如きは、至つて淺薄で足れりと観するであらう、曾て或女教師の余が許に來りてけうたことがある、自分も永年小学校教育者に從事したが、常に家政の繁劇なるに妨けられて自家の修養に缺陷多く、年所を経るに從ひ漸く學力減退して、新進氣鋭の人々と伍して教育場裏に馳騁せんこと頗る苦痛を感ずるに至れり、聞く幼稚園の保姆は學力を要すること少く、其の勤務も亦比較的輕易なるものなりと、驚くは適當の任所を得て保姆たらんことを、當年俊秀の女丈夫、漸く其の雄姿凋落して競争場裏の劣敗者となり、あはれ其の隱家を幼稚園に求めんとするのである、其の苦衷や實に同情に値するもの

三二
がある、とはいへ生憎に幼稚園はかゝる教育界の落武者の避難場ではない、老教師の隠居所ではない、余輩は幼児教育の眞義、幼稚園教育の本旨を懇切に説いて、其の蒙を清いてやつたことがある、然れども驕つて考へれば、彼の女教師をして這般の誤想を惹起せしめたる動機は、那邊に存するであらうか、恐くは彼女の眼に映じたる二三の幼稚園の實際が、不幸にも自家好適の隱遁所なりとの感想を與へたものがあるではなからうか、吾人は切に其の否らざるを祈るものである、若し現今幼稚園教育の實際にして幾何たりともかゝる傾向を有するものありとせば、ソハ由々しき大事である。
人間が環境に處して其の支配を受け、自家品性に上り善なる影響を享くることは、顯著なる事實である、繁劇なる事業に従ふもの自ら機敏の動作を要し、規律嚴正なる業務に當るもの自ら几帳面の性格を與へらることは屢々見るところの事實である、曾て園群に嗜好深き人に聞く、此の技に達せんと欲せば常に自己に勝るものを求めて相手と

し、思を凝らし工夫を重ねて鏡面に向ふの用意な
かるべからず、徒らに磨削のみに専心して打たん
か、必ず劣悪なる手のみ學ぶに至りて、決して上
達することなしと、又之を畫伯に聞く、丹青の道
に志すもの徒らにパンを得んことにのみ、思を馳
せて欺作を繕りに出すことあらば、其の技漸く劣
悪に陥るを免れず、嘗て東都に其の俊才と稱せら
れし新進畫家、一度パンの爲めに職を田舎に求め、
任にあること一年有半の田舎祿に、其の技倆忽ち
下降して其の作最悪なるべきものなりと並れり
と、圓落の末技より算術的技倆に至るまで、平生
の相手とするの如何によりて、其の技倆の高下す
ること斯の如く大なりである、實に環境の影響
は恐しきものである、サチ余輩幼児教育の相手は
何人であらうか、心身共に極めて幼稚軟弱なる幼
兒である、余輩は日々彼等と室内に嬉戯し、遊園
に手を携ふるのである、此の間に於て余輩の言語
は優しくなり、動作は柔かになり、漸く性格の上
にデリケートなる點を印するに至るであらうと思

はれる、又之れと同時に加ふる軟弱なる對象に日
夕に親むによりて、動もすれば向上的努力の機會
を少くすることがありはしまいか、一度二度は準備
を怠にして幼児に臨みても、保育の出来ぬこと
はない、正確なる算算がなくとも年來の慣例を反
覆して之を行へば、極めて手軽に業務を仕終うす
ることも出来るのである、此の如く苟且儉安以
て久に類らば、漸次因循姑息諛に煮え切らぬ性格
を造るに至るではあるまいか、若し夫れ此く迄下
落し果てたる愚癡によりて感化誘導を享くる可憐
の幼児ありとせば、其の不幸の大なること實に測
り知るべからずである此の如き幼稚園があつたな
らば彼の老女教師の歡迎するところならざるを得
んやであらう然れども、余輩は深く信する、幼児教
育者の頭腦は、合理的に具案せられたる誘導を爲
すに足り、其の品性は善良なる感化を附與するに
十分であるべきであると、夫の儚び切りたる舊式
の頭腦を以て、年來の陋力で僅かに其の資を塞き、
敢て進歩的に修養を試みず済し込んで居つては

困るのである。

余輩は保母諸君に勸む、常に職務の直接の準備として、保育の理論及び實際に關して、少くとも新刊書籍雜誌によりて研究を積まれんことを、今一つは精神的營養を十分にせられたきことである、換言すれば今少し自家の向上進歩の爲に思辨を費されたきことである、精神的營養法につきては或は宗教の信仰も可である、倫理學の研究も可なりである、然し余輩は必ずしも宗教に赴かずとも、將又倫理學の系統的研究に待たずとも、精神の營養は之をとる道があると思ふ、ソハ決して六ヶ敷ことでない、單に讀書を爲せば夫れで十分である、面して書目の如きも窮屈な道德經でなくてよい、文學書も可なり、哲學書も可なり、傳記物などは更に可なりである、兎に角自己徳性の修養上裨益するものならば、何でも可なりである、要は毎日幾何の時間は必ず机に向ひて、靜座沈思書籍を讀むべきである、婦人の職分として家に入りては家政に關はることは重要なことであるが、終結前

樺で臺所に立ち働く計りではあるまい、其の間に一時間位讀書の爲めに暇を見出すことは、子供の就寝後にも出来ることである、若し二六時中一時間も讀書の暇もなしといふものあらば、ソハ決して閑暇なきにあらすして閑暇を作らざる怠惰者流の遁辭と申すべきである、又眞個寸毫も讀書することも出来ざるほど多忙なる家庭の主婦であるならば、到底公務に従事し得べきものでないのである、宜しく公人生活を棄て、専心家政に従事すべきものである、苟も公務に従事する以上は常に幾何の修養に努めて、職務實施の上に生氣あらしめねばならぬ。

(未完)



子供の健康を圖る事

(承前)

光 藤 夫 人

四滋養品の供給

子供によりますと、色々の原因から滋養品を厭ふ子もありますが、之は病的ななどでマゝ普通の子ならば、滋養品は好みます。尤も其體質によりまして、或は油の多い物を好むとか、又は淡泊なものを余計に好むとかいふ遠はありますが、大抵は皆滋養品を好む様で御座います。私共の子供も數に洩れませず、マグロのさしみが好き生卵が好き鯛がすすき鰯が好き、といった様な調子で何でも美味で滋養品を好む事が、甚しいので御座います。之は身體自然の要求であらうと存じまして出来得る限り滋養品を取らせて居りますが、又一方經濟の點もある事で思ふ様には参りませんから、其の經濟の許す範圍に於て、滋養で美味なるものを取らせる方針にして御座います。

而し一つこゝに注意を要しますのは、奢に流れぬ様訓戒すること御座います、マゝ鰯のさしみよりかマグロといった様に矢鱈高價なものを望まない事で御座います。只食して心地よく、眞に身體の益になるといふ様なものを選んで高價なものは成丈避けるので御座います。づいぶん廉價で滋養品でしかも美味なものが御座います、なるべく其處に眼着して廉價で新鮮で美味で滋養になる食物を撰擇して居ります。

問食の事
どうもお耻しい事ながら私共の子供は全然間食させぬといふ事が出来ぬので御座います。それで子供の限りなき慾望は菓子などを要求するといふとモ一はてしなくほしがります、そこで私は兩三年前より時間を決めて與へる事にいたしました。午前は十一時午後は三時と、堅く決めました其當分は其間にもねだる事がありませんが、まだ十時は來ません三時は参りませんといふ風に勵行しましたれば此頃はモ一チャンと其の間は駄目と諦めましてオネダーなどはいたしません。

五唱歌

唱歌の身體の健康を増進する上に大功のある事は
今更喋々するを要しないで御座いませう。私も此
唱歌をなるべくやらせる様に奨励いたして居りま
す。其種類は色々で御座いますが、
浦島、一寸法師、源九郎義経、孝女白菊、ワシ
ントンや其他色々御座います。私は只家庭用と
して左の如き唱歌を自作して毎日／＼歌はして
居ります、之れは私が學校の唱歌のやきなほし
をしたので御座います。

一、私の内はよいお内よ、お座しき廣い庭
廣い、積木や人形や色々の、おもしろい物
澤山あつて。

二、私の父さんよい父さんよ、私達を可愛
がり、運動や遊戯や色々の、よい事教へて
下さいまして。

三、私の母さんよい母さんよ、私達をいた
はりて、お菓子や玩具や色々の、よいもの
作つて下さいまして。

四、私の兄弟よい兄弟よ、毎日よく勉強し

く、遊戯や運動や色々の、おもしろい事
緒にやつて。

一、お日様よりも早く起き、お顔を洗ひ齒を
みがき、冷水庫裏を威勢よく、すめば着物を
をチャンと着て、父様母様お早うと、あい
さつしてから膳につき、こぼさぬ様に御飯
たべ、父様いつてあらつしやいと、玄關に
送りていざやいざ、いざおもしろく遊びま
せう、記チャンふーチャン信チャンも、早
く机につきませう、机で積木は何しませう
御門か電車か電車馬居、思ひ思ひにつみ上
げて、ゆつりとこはすもおもしろや、積木
終れば其次は唱歌に移りませう。
指に足りない一寸法師、小さな身體に大
きな望、おわんの船に着のかひ、京へは
るばる……
右の様な唱歌を冷水庫裏しながら、歌ふとか感は
食後一人づゝ歌はせるとか、合唱させるとかして
只學校教授の様な形式なしにいつの程にやら覚え
させる様にして居ります。

六 虚榮心の前身を摘み取る事、

女子は虚榮心の塊であるとは誰れやらの悪口で御座いますが、しかし頸ち無駄口ではありませんまいと思はれます。社會の風潮は日一日と此の向とき質實の境を離れて虚榮の夢にあこがれ行くのではありますまいか、男子はしばらくは言はずいかなる女子も耐んと此の流行に陥らぬものはありますまい。

私は先日都下有名な學校の運動會に参りました。幾多の競技運動は整然と一糸亂れずといふ風で新體な事も多く此の右に屬する立派な運動會はあるまいなど、筆を描いて實談の辭を惜しみませんでした。

高貴の方でも数人御臨場になる參觀人二萬以上と注せられました。しかし此校は比較的質實でありしかも實直なる人の多き事として割合に虚榮にあこがれる人は少ない事でありませうと存じて數人の子を引き連れて参りました。

つい隣席にお出でになりました奥様、子供二人をお側において下女を後に控へさせ縮緬の羽織を

は着流されたる御風姿はマー一寸した奥様とお見受け申しましたが、寸分の隙間もなき人込の中で、色々下女を相手の御高嘶しマ、アレアンコの宮様のお伴で後に立つのが我良人にエー先導が何さんでと指されると下女とお隣の知己らしき老女が相繼を打てて、ア、ホンにあれあそこに旦那様がア、あれよとさながら一年も二年も逢はなかつた戀しき良人が面前に見えましてたかの様に大騒ぎして、珍らし相にシルクハットフロックコートのだ旦那様を感心して見惚れて被らつしやる私共の前をでも通られるとッ、父さんがと手偶に貧さん父さんと呼ばせて椅子によりかいられるとあそこに旦那様がとマ、何といふ良人思の奥様で御座いませうかと、私はモ一只管感心して如何なる人の令夫人かと其良人たる人はよく覺えました、一度見たと思ひますけれど思ひ出されません。丸で影の形を追ふ様の其人の一舉一動は奥様のお目をはなれませんでした。しかも傍に居る人があれが御夫婦かと皆合點する程よく御紹介になりました。

この奥様が殆んど傍に人なき様な高嶺によりまして大方は家庭の様子も推しはかられました。ヒョーよい時分と人わくる運動會の終りを告ぐる少し前に私はお隣の席を汚しました御禮を申して名前をのべましたら、御先方も……と申します何分よろしくとお互にお別れしました。アーこの奥様こそは實に當時都下唯一の模範學校の屈指の教授の令夫人でありました。且つ實を重んずる校風の養成につとめらるゝ教授の令夫人で御座いました。しかもかゝる人中で我良人を未知の人に紹介されます其の舉や輕ばつみと申しますればさもあるべきで御座います。が、私は世に云ふ流行の虚栄心の發作と觀察しましたは強ち僻目ではありませんまい、アー未見の人中で我が良人の位置やら風姿やらを吹聴して私に肩身を廣ふされる其心中の陋劣一笑に附し去れば、しからんも之れは虚栄心の發現として大に誡むべき事と存じます。

かゝる母親の手に育まれて、虚栄の心を去れと子供に望むは、木によりて魚を求むると少しの違ひ

ありますまい。

而し此の奥様ばかりでは御座いせん、何々博士の令夫人とか、何々大學の教授とか比較的實業家よりよい家庭を持たるゝ人の奥様がよく御出でになつて我子自慢を話の花とされる事があるのはにがにがしい事と存じます。無論我が子がよいのに惡くいふ必要はありませんが、只其の場合必要な點々話さるれば其れで澤山であるのに、愛兒の長所ばかりをならべ立てらるゝ奥様の氣心こそ奥床しとも思はれませぬ。

虚栄心の現はれますのは、こんな時ばかりではありませぬが、マア子供の模範となる母親はよく氣をつけて、微細なる點々まで注意をして、虚栄心を増長させる様な事は除かなければなりません。此の美衣美服を幼少の時より纏はせて美しく仕立上げ人に賞めらるゝを内心に悦ぶといふ事は注意すべき事と存じます。白紙の如き汚點なき子供には、何の辨別もなく、只奇麗にして人からほめらるゝといふ事は愉快に相違ないから、其愉快を取らうとして、實しては虚栄心を養ふ事になります。

には學校にでも行く様になれば、人より美しいのを望むといふ風に、だんだん増長しておしまひに親にせがんでも何でも構はず人にすぐれた分限不相應なよい風姿をする様になつて來ます。何か會合がありまして着物がなければ出られない、着物で人後に落つるは無上の耻と心得る様になつて來ます。

こゝなりますと大變大切な自己の心身の修養とか學藝を上げむといふ方面の事は下むきになつて來まして、學業の復習よりか、お化粧の方の研究といふ風になりまして、手も足も付けられなくなるので御座います。モーターなつて之を矯正し様とするのは誠に六ヶしい事で、中々骨を折つても甲斐がありませんから、コンナニ大した事にならないう前に、よく母親が意を用ひて虚榮心の萌芽を摘み取る事が肝要と存じます。

私は之れにつきまして、色々研究中で御座います。今具體的にやつて居る事は、子供をして華美な風に陥らしめないといふ事で御座います。尤も貧乏で出來ぬから負け惜しみにそんな事を云ふ

て木綿ばかり着せて居るとのお笑ひがあるかも知れませぬが何んの少し滋養品を減するとか又は他に目に見えぬ方面にかゝる金とか、不動産とか……これが大變に利益のある事で御座いますれば、如何なる事をしても、絹布も纏はせらるれば、縮緬も着せられると存じます。否却て運動の邪魔をしな必要はないと存じます。否却て運動の邪魔をして身體の發育を妨げる位なものであらうと存じます。平素は男女共十歳位までは、久留米紬にメリンスの被布、晴衣は銘仙か糸織位で澤山だと信じます。

或は皆様のお子様は縮緬のお被布だのに、私の所ばかり糸織では肩身が狭いと思はれる方があるかも知れませぬ。私は信じます肩身が狭いと感じられる奥様は、其の心の修養が足りない爲だと存じます。引ては確固たる見識を持つ事が出來ない爲だと存じます。私はホントニ此處に心血を流いで叫びます。

何故に我子に質素な高尚な風姿をさせて、人中に出し其れよりか華美にして婉麗なお子様を見

て私に肩身を狭ふし無理さんだんをして人に劣らない美華な風に改められますか、なせ此處の所をよく辨へ我が子の習素な高尚な風姿を見て心私に之を悦び之を獎勵さるゝ事なくして、徒らに孔雀の羽を羨まるゝか何んが爲めに我が子の質素なる風貌を見て泰然として虚榮に耽るの奥様方を眼下に視るの明がないでしようか。私は名もなき匹夫の妻でありまして只貧乏人の子實てふ實はか持たないもので御座いますからよし私が子に質素な風姿をさして、人中で耻ぢないとしても、其の感化の功は殆んどない位で實に虚名に存じます、ドーか今少し富あり位置ある人がかかる信念を以て我子を教養され、之を實行されましたならば、恐らく其の効果の舉がる事も大したものであらうと信じます。私は絶對によりき着物を批評するものではありませんが只幼児に多くの黄金を費して、而も得る所は虚榮の精神の増長と。運動の不自由位が關の山、之れ程、家庭に於ても一國に於ても損の事はあるまいかと存じます。こんな所に金をす

てよりか、外な方面に幾らも使途はあるべき事と存じます。學校などで、衣服を一定するとか、或は錦仙以上のものは用ひぬとか、種々工夫して質素なる風にさせ様としますのは、そも末の事でありまして、家庭に於てよく奢侈に流れぬ習慣をつけておく事が必要であると存じます。重ねて申し上げたいのは此の家庭にある瞬時によく氣をつけて、分限相應といふよりか余程控目にして子供の愉快とする所は美衣をつけるといふのでなくして、他に幾つもある事を悟らしめ、不圖不圖の中に虚榮に流るゝ風を防止する事が必要かと存じます。七出來得る限りの仕事を命ずる事。積木とか折紙とか、タコ上げとか、コマ廻しとか、羽子板とか、お手玉とか、遊戯とか、唱歌とか、繪字を書くとか、お人形とか、おママゴト等子供達の遊ぶ事の種類はづいぶんありますが、又た時に大人の仕事の極簡単な事を手傳はせる事も一つの重要な訓練で御座います。將來大人となりて働手となるとか、又はなまふものとなる事の身か

れ間は、又た此の幼児よりの習慣による事が多いと存じます。子供に之れだけの仕事を命じて、大人の手を省かんといふ事は、我が事で、只子供になまけ嫌いといふ習慣を養ふことが大切かと存じます。それには常に子供に相當した仕事を命ずる事が大切であらうと思はれますから、是は毎日新聞を主眼より與に運ばせるとか、其の餘手帳な危険くないものを運ばせるとか、應酬を手傳はせるとか、來客にお茶を運ばせるとか御飯を盛らせるとか、極簡單な仕事はなるべく子供を用ひます。子供は又喜んで其の命に服します。之れ一には心の養育を防ぎ身體の活動を盛にし延いては健康を助ける事と思ふます。

八身心鍛錬主義

之を要するに身心の鍛錬といふ事が常に其の教育法の主眼でありまして、何事を爲すにも大事を取るといふよりか、體面に身を入れて、之を磨かせるといふ手段を取ります。寒さを恐れて覆ふさせるといふよりか、寒さに堪へられる工夫を講行します。少し位風邪の時などは、なるべく運動や食物

をすゝめて、實行して病氣を癒させます。先日五歳になる男児が少し風邪氣味でせきも致しませんでした。然もありました。マ―醫者にも往かなければなりませぬが、一つそれよりか誠い運動をやらせました。三人の子供に、岡町ばかりの所を四回ばかり徒歩競争をさせました。實に汗びつしよりになりました。是は眞事で大恩ついで明りました。其の晩は食事もし、湯浴もせて、御飯をなした。しかし此の鍛錬主義はよく其の子供の體質や習慣や運轉やら詳細に知悉せんと、危險で御座います。其の上尋常に其の教育法を具へて居ないと出来る事では御座いません。其に子供の身體を適當に鍛錬して、完全な體格を造りしめ體としますには、母親は醫者の知識も、教師の知識も、俗人としての知識も、女としての知識も男としての知識も、判官としての知識も、能くも、あらゆる方面に涉りて其の大體に通ずる事が大切であります。實に賢明なる母親ありてこそ子供は心身共に完全なる體格を造ける事が出来ます。



此頃の御料理

最近の新聞に載せられた御料理は先づこんなち
のであります。御試めしなさい。は如何。

○牛肉の清汁

性なき大槌の、二つ割りにしたるを御水口に通す。長一寸五分程に切りたる葱と共に鍋に入れ、鹽煮出汁を充分盛ふ程に注して、中火にかけ、葱の煮へたる頃大きく湯切にした牛肉を入れて、ずつと煮、平なり酒風なりへ煮付ぐるみにあけ、御油煎をふりかける。

○ 餅

粥飯を一分に粥の割合一合五勺の割合とし飯を普通より強き水加減に仕かけ、醬油を燒の盛に一盞程加へ、飯の吹き始めたる時粥の割合をかきまぜて炊き上げる。成るべくは土釜にて一人粥づゝ炊くがよろし。

○貝の柱滑汁

貝の柱清汁 馬鹿貝の柱を裏に入れて水中にて摘り、鮑し、油を洗し、等を切り小鉢に取り鹽を加へたる鹽き鹽煮曲汁にて漬めて、筒に同置し、鹽し放しの大帳おろし一摘を加へたる上より煮沸したる清汁を流がす。

○甘藷饅頭

甘藷の皮を剥きて庵丁し灰汁ぬきなし、少量の水にて煮し加減に蒸でたらば暫時冷却して手にて捏ち、砂糖を摺り混ぜたる甘味噌を餡にして饅頭にこしらへ、地爐に白胡椒を敷けたる上に置き、並べ、平たく押し潰して兩面を焼く。

○ピープ味増あへ

まづ牛肉の軟かな部分を可食部細く切つて、沸騰湯の中に入れて火を通るまで茹で、底に揚げて肉氣を去り暫時冷まし、味噌三十克を醬で搗つて裏漉にかけて、肉片からしを茶匙二杯、上砂糖茶匙一杯となに入れて良く攪り、酢五勺を順次に入れて攪り、延ばし茶中に牛肉を入れて混ぜ、合せ之を五人前食に盛り入れて、其上に酒、蔥を「ツ」ふりかける。

○キヤペーじとバインナツプサラダ

一、キヤベツを水にて洗ひ細く切り、鹽水中に三十分浸置く
 パイナップルは外皮を取り去り鹽に四割として、横より薄く切り
 置くキヤベツを水より取上げ、鹽の中に三分間浸し置きパイナ
 プルと交ぜ、其上にホワイットソースを掛けて供す二、ホワイ
 ツソース製法中肋二杯のパテを鍋に入れて薄し、メリケン粉同一杯
 半入れてよく攪き夾で鍋小肋に四分の一細粉少量を加へ、且つ牛
 乳一合を餘々と加へながら夾で入れる。

(注意) ホソイトリスは煮るに焦げ附くことある故二重鍋にして煮るべし。

○鮎の寄せ蒸し

鯛の頭を取捨て、背肉をつまみながら、兩側の肉を炙き放ち、之に鹽をふりかけず、と水にて洗ひ、熱く水を切りて、鐔鉢に入れ少し鹽を加へて燗飯し、鹽れ布巾を電熨の上に述べ、其上に燗肉を置き、電下にと水をつぎながらも、厚き五六層の力餅にかため之を布巾と換

...



智恵の種子

一、子供の睡眠時間

子供が夢に醒れるのは日中静けい遊びをしたか或は夕食を食したからで夜中に吃驚して泣く子供は神童が非常に興害して居るのです。睡眠中は血に動いたり或は吐きついたりするものでありとせん。血に氣を動めて起るべきです。

子供の夕食は消化の悪いものを食べ過ぎです。五六歳の子供なら眠くとも七時半迄に眠かすべきです。眠むいと眠くないとは違ひません。睡眠所の中で息を停るかして眠ればよいのです。其中に習慣がつかぬ時、息を停るかして眠くならぬものです。夜中驚いて起る事、子供は為め大穴を開く様に思ふかも知れぬ。睡眠の換氣法を行ふ事は何人にも必要であるが、時に夜泣きする子供の爲には常に空気の流通をよくして通らねばならぬ。長は暖かにして起るは勿論だが可成重たい布団でなく軽いものを用ふべきです。子供の就床前に水を起るは非常に危険の極に等へて居る。睡眠が何れも左な事はありとせん。睡眠が滅つたり喉が乾いたりしては快くも睡れるものでありとせん。睡眠者の子はよく眠るので六歳の子は十二時間の睡眠は必要です。睡眠者の爲めに年齢に相當する睡眠時間の一覽表を左に編ぐ。

一歳	十六時間	二歳	十五時間
三歳	十四時間	四歳	十三時間
五歳	十二時間	六歳	十二時間
七歳	十一時間	八歳	十一時間
九歳	十一時間	十歳	十時間

二、睡る時の姿勢

一日活動して夜分睡ます時にはどんな體態になつて居ても支ないと思つては大へんな間違ひでありとす。左の専門大衆の談に依りますと、胸郭や腹部の骨を壓する体位は衛生上有害であります。子供などで腹を平にならねば腹がかわつと云ふとは度々聞いて居ります。それは必ず何か病氣があるのです。ですから等閑に捨て置ても可いと思ふ。また睡眠は多くの人の睡眠であり、一方にのみ醒ると胸郭や腹部を壓して長い間に睡眠を床たすことがありとす。左の専門大衆の談に依りますと、睡眠を付けることが大切でありとす。睡眠これは久しくは睡へ得ないものが多う御座います。かへて得るならは睡眠上には支障ありません。ゆゑ身體の發育する時期に足を屈して宛ながら睡眠のやうになつて睡ますと其爲めに頸椎を屈する體位がありとす。時に睡む時分には見角人が屈曲して睡ます。これは睡じて起きぬ方が宜しい。さればと申して炬燵を床の中に入れることは無難に安へるゝ。ゆゑ運動を起すことを助長するのみなす。大穴より有害なる其例を假して空気を強し所謂中脊に屈つて頸椎を屈します。故に時を時々にには大穴以外のものに換へなければなりとす。ゆゑ手は自然の體位のやうにして置けば宜いので肩の下の敷き或は無理な位置に腰を曲して胸の上などに置いとす。鼻の鼻肉は腹側に背して自然の體位が美しくなりとす。又口を開け放して睡りますと鼻の口で呼吸をするやうになつて空気が直接に喉頭に流れ、呼吸の爲めに刺激されて咽喉軟膜に刺激兒を起し、睡眠が静かなく衛生上甚だ危険であります。ですから口をきちんと閉めて鼻で呼吸することに注意しなければなりとす。

三、睡眠する場所

暴風をしてゐるのを御覧になつたでせう。動物の中で喰食暴風をする者はいふまでもないが、あの恐しい嵐も時々暴風をするやうです。北緯道から運道歸つて来た友人の船によりますと時々船が運道歸路にやつて来て方に低せてレールを引き曲がりたり枕木を破れ倒したり、中には船東方の強いのが船で進行中の汽車を其の前に立つて両手で押止めやうとする事もある船ですか。御覧な暴風の暴風は時には人命を無くする事があるのですから非常に危険で御座います。

▲獅子嶺を越す河童 是れは夏の暴風で云ふ事ですが、私も其に被つた事がふいふです。夏の暴風では獅子嶺は獅子が成る嶺になつたらぬが獅子嶺を村の川に投げ込み河童に與れば多量河童が暴風をすすると申して居ります。昨年夏の暴風に被つた時、其れを聞いてそんな馬鹿な事があるものかと思ふて細の獅子が食べられる嶺になつてか朝成りを四つ五つ取つて歸つて其晩食べてしまひました。母は心配して、「河童には與つたらうれ」と申しますから、私は「衆共與つて命を奪ふ」と答へました。すると母は一層心配して「では今夜河童が来て暴風をすのに御座ない」と申されまして、私はそれが信じられませんでしたから其の強御嶺に行つて見ました。母は少し多量暴風でしたから其の強御嶺に行つて見ましたと聞いては知りませんが、獅子には我れにも風で吹き飛ばつた様な勢が附いて居るのです。それで私は夜中に風が吹いて、夏や秋と聞かれたのでは無いかと疑つて強御嶺の嶺を見ましたが其れには何の御座もいふません。東に歸つて其事を母に申しますと、母は「それ御覧、河童が暴風をしたのです、早く獅子を與つてお返しを云はなければなりません」と申されました。私は母の命に従つて獅子を川に投げ入れお返しをしますと其夜からは急に何の異状もいふませんでした。

▲嵐の妨げをする類 私の父がよく私に話して聞かせた事ですが父が嵐を止めたのは賑から暴風をされたからだ相です。或る夜父

は餌がしと云つて魚の餌をうな所に少々増したと雖と雖土とを丸めた大きなお獅子を沈めて置き魚のそれを食べに集つた頃を見計つて網を投ずる。その餌がしに行つて時に網を投げてやうとした時、突然河童の軍軍からも大きな網がずんぶと背を立て、幾込んだやうです。父は吃驚して投げかけた網の風合ひで川に落ちた相ですがそれから嵐を止めた相です。是れは一人夏の父のみでなく河童の漁をする人に聞いて見ますと度々ある事だと申して居ります。

▲暴風を御覧ふ風 是れも夏の父の實験でいふことが成月川向の村で實會のあつた時騒ぐなつて夜の十時頃川岸の竹藪の中の小路を見一人歸つて居ますと突然彼から何か知らぬがぶ下つて父を突き倒すやうな事です。父は少しく倒れておまじしけれども自分が實會のお土産を風呂敷に包んで持つて居るから風がそれを吹き飛ばすに暴風をするのだらうと思つて腹度も引き倒されんと思ひましたが一生懸命に立つて歸つた相です。歸つてかの其の事を話しますから母や姉等が驚つて二重返しを見ますと其れには何か知らぬが風の風がいつばいで廣々突き倒された所もいふました。是れは父の手にした嵐のお土産を取らうと思ふて嵐のした暴風に相違いふません。

四、パナマ運河

パナマ運河は開通だけは二分の一餘つて居るが開通たけは餘つて南方へ千百呎の土を掘りなけりばならぬ、之に少くとも五年かゝる次に餘額を掘へるのに二箇年掛る、何れも今より同時に着手するといふことになつて居る、是等の費用の總計は四億圓といふことになつて居るが非常なる難事が無くとも六億圓は掛るだらうとの事、竣工期限は既に角會界米會育の土木工事であるからドヤいふ難事に遭遇するか何人も明言は出来ぬと云つて居るが今の儘で行けば明治五十年には開通するものと見て差支へないやうに思はれる(總計集第三四四號)

●玩具展覽會

▲出品者の資格　は製造者、販賣者若しくは之を兼ねる者にして

●幼稚園保健待遇令改正 去月 日の官報につきて本會并に大阪保方法の建議に係る保健の待遇に關する改正令發布せられたるに、左に掲ぐるは其全文なり是より幼稚園のこと大に見る可きものあらん。

師範學校官制中左ノ通改ス

第一條中「訓導」ノ次ニ「保護」但シ附屬幼稚園ヲ開キタル場合ニ限ルヲ加フ

第二條及第九條中「訓導」ノ下ニ「保護」ヲ加フ

第七條ノ二 保婦ハ附屬幼稚園ノ保育ヲ掌ル

第十條ニ左ノ一項ヲ加フ

附屬於神國之國主

國會議員三島三太郎

第三號表中師範學部

助教諭
テ

訓導
二改×欄外二左

頁
加
了

保婦ノ俸給ハ最下級以下十圓迄ヲ給スルコトヲ得

勅令第三百三十四號

明治二十五年勅令第三十九號中左ノ通改正ス

範學校ノ部「訓導」ヲ
ニ改メ小學校ノ次ニ左ノ如ク加フ

[illegible]

勅令第三百三十五號

小學校ノ本科正教員タルベキ資格ヲ有スル市町村幼稚園長及保母

●大連幼稚園
同幼稚園は先

事落成して盛んなる陵功式を舉行したり同幼稚園の新園舎は總石

遺にて東洋隨一のものなりと云ふ



お伽訓話

五色の鹿

むかし／＼天竺と云ふ國のある山奥にからだの毛か五色で角がまつ白の大きい鹿が、一匹住んで居ました。此山奥へはだれも來る人がないので立派な鹿の住んで居る事はだれも知つて居る人がありませんので鹿はいつ迄も／＼狩人にかまへられずに居りました。そして其山に一匹大きな鳥が住んで居ますので、鹿と鳥は仲のよい御友達で毎日／＼楽しく暮して居りました或小春日の溫い日いつもの様に二匹が連れ立つてあちこち散歩しながら

鹿『鳥さん／＼此山はほかと違つて人も來ず鐵砲の音もせず靜かで何とよいではありませんか。』

鳥』ほんとうに私共は仕合ですね。之で二人仲よく暮して居ればこんなよい事は
ありません、ごらんなさい向ふの谷の景色は何とも云へずよいではあり
ませんが、木々が紅葉した處は錦のやうですね。一つあつちへけふは行つ
て見ませんか。』

と誘はれますので、

鹿鳥さんのおつしやる通りいゝ景色ですあそこには川も流れて居ますからお
魚でもたべて來ませうさあ鳥さん私の背中へおのりなさいそうして早く行
きませうよ。』

と二人イヤ二匹は仲よく向ふの谷川へと行きましたそしてきれいな清水を呑み
おいしいお魚など澤山たべてさあもを之れでそろ／＼歸りませうと話して居り
ますと、まあ不思議何やら川の方で聲がします二匹とも生れてから人間など見
た事がなく人の聲も聞いた事もないので何やら分らず二匹ともびつくり仰天し
てまづ鳥が高い木の枝に止まつて何事かとあたりきよろ／＼見ながら。

鳥鹿さんく一體あの音はなんでせうねこゝへ上つた處何も見えませんよ、

何事でせう」

とキヨロくして下りて來ました、鹿もびつくりしながら。

鹿「あれがもしや人間の聲ではないでせうか」

とこわんく二匹であちこちして居ますと川の中に何か大きなものが流れて來ますそしてそれがしきりにおがむのを見て鹿は可愛憎になり大急に水へ飛込で背中にのせ又岸へあがつて來ました、そうしますと其は此山の麓に住んで居る木こりでしたが逢あやまつて川へ落ち助けてくれくとどなり乍ら此迄流されて來た處でもし此鹿が居なかつたら死んでしまふ處でしたので大層よろこんで。

人「お蔭さまで助かりました何と御禮の申しやうもありませんどうして此御恩を報ひませう何なりとあなたの望み事をおつしやつて下さい」

と云ひますので鹿は。

鹿「あなたが死ぬのが可愛憎故お助けしたのですから何も御禮などは入りませ

んけれど一つ御願があります外でもありませんがごらんの通り私のからだは五色の色をもつて居ますから人に知れ、ば此皮を取らふとてきつと殺されるにきまつて居ます此山奥にはまだ人と云ふ者が來ないので、こゝに住んで居るのですからどうか此山に私の住んで居る事を決して人に知らせて下さいますそれが何よりのお願です」

とくれぐれも申しましたきこりは、

人『ご尤の事です決してくだれにも申しません』

とかたく約束して鹿は山の上へきこりは下へと分れて行きました。

さてきこりのうちの人だちはおとうさんが朝出たきりいつ迄たつても歸つて來ませんので大變心配して居りました處が夕方になり頭からビツシヨリになつて歸つて來ましたので、うれしいやら心配やら皆口々に。

『おとうさんどうなさいました着物もビツシヨリ頭も水だらけですそれにお顔色もよくないしどうなさいました』

と右からも左からも聞きますが、木こりは鹿との約束を守つて只川へ落ちただけしか何も云ひませんでした。

さて話かわつて此國の王妃がある晩夢に五色の鹿がきれいなく花を澤山あたまへのせて御殿へ來た處をごらんになり、どうかして其鹿がほんとうにほしくてたまらず此夢を王様に御話なさつて、どうか鹿を捕へて下さいとしきりに御頼みになりました。

そこで王様も其鹿がほしくなりましたので國中へおふれを御出しになつて其鹿を探してつかまへて來た者には金銀珠玉は云ふに及ばず一つの國も御褒美にやると云ふ事が書いてありました。

それ故人々はどうかして五色の鹿を見つけたし大金持になりたいとみんな一生懸命にあちこちの山々を探して居りました。

ある日川に落ちた木こりが澤山の木を馬につみ都の町へと賣りに來ました。大分道も遠いので町へついた頃は大變くたびれましたから道端の石へ腰かけて休

んで居りますと鐵砲をかついた狩人が三人來て木こりの側により。

『若し之から向ふの方に山が見えますがあなたはあちらの方の人ではありませんか』

と聞きますから。

『はい私はあの山の麓に住む木こりですが何か御用ですか』
と云いますと一人か

『それではあなたあの山へ行つた事があるでせうがもしや五色の鹿を見た事は
ありませんか』

と云ひます木こりはけふこそ鹿への恩返しと思ひ。

『イ、エ私は毎日あの山へ木をきりに行きますがそんなものは見た事がありま
せん第一あの山は大層奥深くて昇ればのぼる程道もけわしくなりますしそれ
にあの山にはよくない獸で人さへ見ればたべるのが居るそうですそれ故親代
々住む私でさへ行つた事がありませんまああなた方もおよしになる方がよ

いでせう』

と誠にしく云ひますので狩人も心細くなり一人が。

『おや／＼それではまあ命あつての物種だからやめにしませうけれどどうかして五色の鹿をほしいものですねそうすれば急に一國の王様となり大金持になれるものを、何と皆さんそれでは他の山へ行きませうではありませんか』と云へばあとの二人も。

『實においしいが仕方ありません永年住んだ木こりが云ふのではほんとうでせうからやめてあそこの山を一つ探ませうよ』きこりさんどうもありがたうお蔭で命びろひしました。知らずに行けば大變な處どうもありがたう——と何度も御禮を云つて又もとの道へと歸つて行きましたさて此狩人の話を聞いた木こりは獨り言して。

今の人たちが何でも五色の鹿を見つければ王様で大金持になれるといったがほんとうかしら、もしそうなら知つて居るのは私だけだからいつでもつかま

へて行かれるが、そうすれば坊やだちにいゝ衣物もたくさん買つてやれるし
此御正月もおかちんでも澤山ついて遊んで暮さるゝし、そして毎日こんなに
寒い思ひて稼がなくともよくなる。あゝうれしい早速飛んで歸つてつかまへ
やう』

と馬も木も其まゝ一目散にかけ出しましたが。

いやゝとんでもない考へ違ひをした、いつぞや川へ落ちて死ぬ處を助けて
くれた恩ある鹿だつたそうゝそして其時かたく約束したのだつけ。あゝど
うしやう、あたしが云ひさへしなければだれも知る人はない今も三人の人へ
あの山へ行つては大變と教へてやつた之で少しでも鹿への恩返しが出来たと
よろこんだか、あの人たちの話を聞いて急に立派になりたく何の考へもなく
此迄来たが之はまちがつたゝさあゝ又木を賣つて早くうちへ歸りませう
あの時死ねば今頃は子供たちとも一所に居られない所。之も全く鹿のお蔭だ
つたのに一寸にもしろ其恩を忘れたのは、あゝ悪かつた悪かつた』

と考へ直し又馬の手綱を取り町々を賣つていくらかの御金にし夕方寒い風に吹れ乍らうちへ歸つて來ました。

そして木こりは鹿の事など思はず毎日木を賣つては歸り其御金で親子の鹿が居る所か知れるだらうわれこそ一番にさがして御褒美をいたさかうと商買を休み仕事をやめて皆鹿探がしに夢中です。

それで此木こりの家へも毎日のやうに此上の山の道案内をたのみに來ますが其たんび木こりは。

『決して此山奥へいらつしやるな。私が親代々ここに住んで居ますのでよく知つて居ますが此山へはまだ行つた人がありますません二三人は行つたやうですが皆獸にたべられて歸つた人は一人もありませんまあくおやめなさい』と云つてはとめて居ましたそして其度にけふも之で鹿が無事。あゝよかつた。と獨りよろこんで居りました、が一日ノとき、に來る人が多くなりますので

中にはとめてもかまわず行かうとする人さへあるやうになりましたので此木こりの方は一方ならず心配しました。そして又思ふのにかは此奥山まで行く人があるにちがひないそうすればきつとあの五色の鹿が見つけられ殺されてしまふし又見つけた人は王様から大變な御褒美をいたゞくのだそれぢや私の早く申し出た方がとくかも知れないと思ひましたそれから云ふもの毎日けふは行かう明日は行かうと思ひながら又助けられた恩を思ふと行くのもいやで毎日木も切らず仕事もしず獨り深く／＼考へ込んで居ります子供だちはそれを見て。

兄『おとうさん此頃はどうかありませんでしたか大變心配そうにたゞいさ許りつゝて考へていらつしやるが何か御氣にかゝる事がありますか』

とたづねますと弟子も

弟『おとうさん年をとつてあんまり重いものなどかついだり遠い道をいつたりなさるのでくたびれたのではありませんか之から私だち二人でしますからおとうさんはうちにいらしてらくにして居て下さい』

と頼みます可愛子供たちにこう云はれますと此木こりはもを胸が一ぱいになりました。

『おゝ二人とも年も行かないのにおとうさんの身を案じてくれるはうれしいがどうもこう貧しくてはお前だちにおいしいものもたべさせられずお正月でも大きい嵐も買つてやられないので可愛憎でならない。どうかして大金持になつてお前だちを喜ばせたいとそれ許り毎日考へて居るのだ』

と云ひました兄の太郎。

『おとうさん／＼僕だちはちつとも大きい嵐などほしくないからそれよりかおとうさん先のやうに元氣ににこ／＼して居て下さい之から僕だちも手つだつて働きますから』

と云つて慰めますので又其氣になり。

おゝ太郎も次郎もよい子ちやおとうさんはもを考へず元氣にするから心配しないですよいさあ二人ともあつちへ行つて仲よくお遊びして下さいくら人が頼ん

でも決してあの山へは道案内してはいけないよ

とよく云ひ聞かせて又いつものやうに木をうりにと出掛けました。道々山への道を聞かれる度に山奥の恐ろしい事を話しては止めて居りました。

王様の御殿ではいつ迄たつても五色の鹿が見つからないのでお妃は早く／＼とおせきになるしけらいだちはどうする事も出来ず一層もつとよい御褒美にしやうそれでないと商買をやめたり仕事を休んだりして居る人許りふゑて早く見つからなくては仕方がないからとて又々一つの國をやるほかに此國の王様のあとりにすると云ふ事をふやしました。

けれどもきこりは決して誰にも五色の鹿の居る所を教へませんでした。それで今も其鹿は生きて居るそをですが夫れは何處に居るのだから誰も知りません。私も知らないのです是れぎり御話ができません。さよなら。

謹賀新年

新年に際し態々賀狀を寄せ
られたる方々へは一々御挨拶
可致の處多忙に付甚だ勝
手ながら茲に御芳志を奉感

謝候

フ
レ
ー
ベ
ル
會

主幹
幹事

同編輯主任
同同同同同同同同同同

黒田 田村 池田 小關 大關 武井 藤井 福田 和森 下雨
定ヨ 吉ヨ 清ヨ 藏ヨ 枝實 實實 實實 實實 實實 實實
た 實 實 實 實 實 實 實 實 實 實

謹賀新年

開店後研究日に進み店務も
稍々整ひ候間倍舊の御愛顧
願度迅速廉價に御用辨可仕
候

明治四拾三年一月元旦

幼稚園用品
和洋玩具類
運動器具類
製造販賣商

東京九段中坂上

フ
レ
ー
ベ
ル
館

第三版 幼兒 教育 談話 材料

定價金 四拾錢
會員特價參拾錢
郵稅 四錢

右は女子高等師範學校附屬幼稚園で話して居る談話の粹を集めたものであります。幼兒教育に注意せらる母親は是非之を標準として作話されんことを望みます。暫く賣切中でしたが一週間ばかり前に第三版の製本が出来しました。本月中に御注文の方へは會員並特價參拾錢で差上ます。會員にて本月中に御注文の方は郵税を要しません。